樋口葉子の日常

しゅう

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
樋口葉子の日常

【Ｎコード】
Ｎ６１５７Ｕ

【作者名】
しゅう

【あらすじ】
２２歳。高校教師。処女。樋口葉子は自己紹介が苦手だ。

はじめからはじまり

今日でちょうど三カ月になる。立ちっぱなしでむくんだ足をさすりつつ葉子は気づいた。どおりで「先生」なんて呼ばれても最近はあまり面喰わなくて済むんだ。

電車が揺れて、正面で居眠りしていた中年男が驚いたように顔をあげた。その顔を直視しないように慎重に視線を外すと、窓の外に墨汁を注いだみたいに真っ黒い森が見えた。新宿の街はこの時間にだって屋外で本が読めるくらい明るかったのに。葉子は数か月前、女子大生だった自分のことがもうよく思い出せない。楽しかったのか、つらかったのか、いろいろあったはずなのに就職活動しかしてこなかった気がする。

いま葉子は地元の出来の悪い私立高校で常勤講師をしている。常勤講師とは、正規雇用ではないにもかかわらず学年業務や、部活動や、ヘタをすると担任まで持たせられる教員のことだ。最低限の給料で、ボーナスもなければもちろん残業にも休日出勤にも手当てはつかない。毎日朝の七時半に学校につき毎日九時近くまで家に帰れない。でも葉子にはほかに行けるところがなかったし、大学に残って就活をすることは親が許さなかった。

七月五日（前書き）

暑い。

七月五日

期末考査の二日目。朝から調子が悪くて（身体の健康状態のことではない）手提げ袋に突っ込んだ袋から豆菓子をつかんでばりばり噛み砕きながら電車に乗っていた。塩のついた手をどうしようかと考えながら歩いていたら先輩教諭の田淵がおはようございまーす、と言いながら葉子を追い抜いて行った。菓子を食べながら歩いていた自分に今更ながら恥ずかしくなって、挨拶を返す声はやや裏返った。ふと前を見ると葉子と同期の上村が歩いていて、田淵に気がつくと頭を下げた。二人は親しい友人同士のように並んで話しながら歩いて行く。

自分にはああいうことはできない。

みっともないのが分かっていても菓子を口に運ぶては止まらなかった。胃も限界だし顎も痛いし、これ以上カロリーをとるなんてとんでもないのにどうにもならない。暑さのせいばかりでなく、校門をくぐるころには葉子はからだじゅうがじっとり汗ばんでいた。

職員室に入るとすっと空気が涼しい。挨拶をしながら席につき、さりげなく見渡す。阿部の姿がないのにほっとして、考査問題をとりに教務用ロッカーに向かった。昨日は出勤したらすでに監督の教師の机に一日分の考査問題がおかれてしまっていた。専用の袋に入れてからロッカーに提出された考査問題を監督の先生に配って歩くのは葉子の仕事なのに上司にやられてしまってはなんというか非常にまずい。学校は他の業種に比べて縦関係が薄い。またそうでなければならないものとされている。でもやっぱりそれは真に受けてはいけない建前だし、分かりづらい暗黙のルールはたくさんある。

葉子は２２年間かけて自分がただでさえ人の輪から外れやすい人間だとようやく認め、その危険性にも気がついた。だからそういうものにはことさら敏感でありたいと思うのだが、奈何せん、上手くいかない。

半日はあっという間に過ぎて、昼になった。担当教科のテストが返ってきたのでマルつけをしていると、鈴木がメモボードを手に横に立った

「先生、この日部活の大会あるんで、不参加です」

「そうでしたっけ。すみません、ありがとうございます」

そうでしたっけ、といったあとで葉子は以前その時期に大会があると知らされていたことを思い出した。なんでわざわざ『忘れてましたアピール』しちゃってるんだろう。

「あ、そうだ。鈴木先生、今週の土曜って練習あります？」

「ありますよ」ああ。あるんだ。

葉子は今週末オールでカラオケに行く予定だった。六時から翌五時まで、アルコール飲み放題がついて三千円というお得なコースだ。

「午前ですか？午後ですか？あたしできたら午前のほうがいいかなー、なんて・・・」

「・・・バレーとバスケにもよりますけど・・・午前ですね」

いった瞬間また後悔した。これでは部活が自分の都合の妨げになると言っているようなものではないか。

「そうですか。ありがとうございます」

部活いやだ部活いやだ部活いやだというのがもうたぶん全身からオーラになって飛んでいるんだろう。そうだよわたしは働くのなんか嫌いだし汗かくのも苦労するのも大っきらいなんだよ。こんな仕事辞めて新宿とか池袋に戻りたい。ちょっと服買ったり過食用食材買うくらいのお金なら何の苦労もなく調達できる環境に戻りたいんだよ。ああああああでも正社員にならないとだし、事務も営業もできそうにないしでもこんなんじゃ正採用されるかどうかなんかわからない。そのための努力をするとかするふりをすることすらいやでいやでしかたがない。このついさっきだって業務時間中に携帯をいじっていたところを主任に話しかけられてしまった。しかもその内容はむしろ自分のほうから伺いを立てなければならない類のものだった。気が利かない、サボりたがり、仕事はミスばかり、知識な

らあるのかというと別にそういうわけでもない。教育実習生よりたちがわるい。そしてなにより周りの輪に溶け込めない。

三時を過ぎるとみんな中学校訪問やら下校指導やらで学年の先生はいなくなってしまった。他の学年は人数は少ないもののデスクに人がいるのに二年生だけガラガラだ。

周りの談笑を聞きながらペンを動かしていると急に猛烈な孤独と焦りを感じた。

給湯室まわりの掃除もひとりきりでやった。ゴミ袋を二つ抱えて、足で扉を開けたのを教頭に見られた。教頭は何とも言えない顔をして

「大丈夫樋口さん」

「大丈夫です、すみません」

ゴミ置き場は雑然としていて、ジュースのペットボトルを入れたポリ袋の表面には普通より一回り大きく黒々としたありが多数這いまわっていた。考査中だからかサッカー部の声も聞こえない。まだ夏の日は明るい。静かで、うだるように暑かった。

定時になるのを待って葉子はこそこそと逃げるように帰った。帰り際下田と岡本が連れだって帰るのに会った。下田は自分と同じ電車を使っているのでもしかしたら先を歩いているかもしれないと思ったが、ほんの数分しかたっていないのに学校の前の長い一本道には誰の姿もなかった。岡本の車で帰ったんだろうな、と思った。

職員室の窓から笑い声が聞こえてくるような気がする。結局私は昔から何一つ変われない。じっとりと夏の暑さが染みてくる。駅までの道を歩きながら葉子はいままでの、ありとあらゆる思い出したくな事柄をつぎつぎと思いだし、叫びだしたくなりそうな衝動をこらえていた。

いつだってここではないどこかへ行きたくて逃げたくて仕方がなかった。ここが淵なのか、とおもったら無性にやりきれなくなった。自分の人生とは何か、なんて中学生見たいな感情があとからあとからあふれ出てやまない。

帰りにピノの抹茶味を買って帰った。まだ火曜日か。一生かかっ

ても休日が来ないような気がしてきた。

七月六日

監督表のミスで出勤していない教員が監督になっていたせいでテスト袋が行方不明になった。でもチェック表にもテスト袋の表にも同じことが書いてあったら信用しちゃう、と葉子は思う。その先生が出張だなんて知らなかったし。

「すみませんでした」

「いいよ、みつかったなら」

小走りで駆けていく小川を見ながら葉子はなんとなく腑に落ちない思いがしていた。

テスト監督は確かに退屈だが、楽だ。５０分なんてあっという間に過ぎる。座ってはいけないのがつらいが、座ったら座ったで眠気に耐えられそうにないので逆に助かっていた。

午後から下校指導と中学校訪問で学年主任と二人行動だ。２０分に出るといわれて２０分に職員室に戻ったら主任の姿はすでになく、持っていくためのパンフレットなどの袋もない。慌ててカバンをひっつかみ外へ出ると主任はすでに玄関の前に車をつけていた。馬鹿か私は。２０分に出るって言ったら２０分に学校を出ることだろうに。慌てて謝って車に乗った。

正直、緊張するしなにを話しても落ち着かない。昼食も相手の食べるのに合わせていたら少しも食べた気がしなかった。こんなのに１０００円近く払って、余分なカロリーを取って馬鹿みたいだと思う。営業職じゃなくてよかった。

葉子は人とモノを食べるのが苦手だ。人と比べて明らかに食べるのが遅いし、食べているところを見られるのがものすごく嫌だからだ。でもくちに入れる量はほんの少しにしないと噛んでいるのか味わっているのかまるでわからないからすこしずつすこしづずつ食べたい。大口にいっぱい詰め込んで口を動かすと顔が崩れて不細工がさらに不細工になるから絶対いやだ。よく仲良くなる手段として「

食事」が用いられることがあるが、あの神経はさっぱり理解できない。食事はひとりきりで誰からも見られずこっそりゆっくり食べるのが一番いい。他人に見られながらいい料理を食べるより、一人きりで卵ごはんでも食べていたほうがよっぽど幸せだ。まあとにかく今日の葉子の昼食は金のむだなばかりではなく、体に脂肪を蓄えて醜くなるだけものだったのだ。

六時過ぎ、近くの駅で降ろしてもらってから葉子はアイスクリームを一つとゆで卵を三つと、かき氷を一杯、ビスケットを5枚、豆乳をコップに二杯。合わせて７００キロからリー近くをもかっ込んでしまった。先週と比べて2キロも太った。もう嘔吐を解禁してしまいたい。週末にカラオケに行くからと控えていたが、これ以上太ったら頭がおかしくなりそうだ。

七月十一日

七月七日。とにかくつらい。早く一週間が終わってほしい。つらいとしか表せないのがイライラしてくるくらいつらい。

七月八日。金曜日なのに明日も仕事がある。わけがわからない。世の中の人はみんな休んでるし、それでも私よりいい給料もらってるのに。部活とか土曜投稿とか考えたやつはみんな苦しみぬいて死ね。うざいうざいうざいうざいうざい

たぶん来ないだろうと思って在学ニートをやりながら漫画家になりたいなんてほざいている発達障害気味の友人に（言っていることがむかつくだけで本人に恨みがあるわけではない。事実彼女の行く末が非常に心配だし早くそういうあほなことを言うのをやめて普通に就職してほしいと思っている）週末のヒトカラにつきあわないかと聞いたら来るという返事。やけになってもうひとりにも連絡してみるとやはり来るという返事。約束が決まったら無性に一人になりたくなってきた。人と一緒のカラオケは正直ただの接待だ。まあ酒が飲みやすくなるから我慢しよう。一人のほうが気楽だが酒が注文しづらいのだ。ストレスがたまって食べ物ばかり買っては吐いてしまう。全然何も残らないし体にも悪いし太るし苦しくて汚いのにそれだけが唯一の楽しみでもある。矛盾してる。

七月九日。朝から帰りたい帰りたいで変なオーラが体から出てきている気がする。模試監督もないし何もすることがない。夏期講習の準備なんて言って半日テキストをいじって、まだ大勢先生方が仕事をしているのをしり目に勤務時間が終わるとあわただしく逃げ出してきた。給湯室の掃除を忘れたのに気がついたがもう校門を出てしまっていた。もういい。火曜日は全部私が一人でやったんだし。大宮につくとワンピースに着替えた。二年前に電車で体を触ってきたおっさんを脅して取った金で買ったその服がなんだかものすごくダサいのに気がついて二人に会う前になにかなんでもいいから服を

買おうと駅ビルを上から下まで見て回るがどれもこれも高いような気がして手が出ない。過食には３０００円でも５０００円でもぽーいとつかえてしまうのに１０００円のキャミソールすら手が震えて買えない。鏡に映る自分の顔が鼻がでかくて気持ち悪い。ゴリラが服を着ているようだ。いらいらいらしてくる。二人からそれぞれ約束の時間に遅れると連絡があった。どうせそうだと思っていた。いつもこいつら人を待たせるんだ。会ってから、なぜかうどんをたべ、カラオケに行くがフリータイムにはあと４０分たたなければ入れないという。仕方がないので近くのロフトへ行く。ひろ子が「ぽこにゃん」を探したいと言うので本屋に行く。不二子Ｆ富士夫美術館に行きたいのだと嬉しそうに言うひろ子だが、どうも葉子は不二子には興味が持てない。頭も体も丸々していて気持ちが悪い絵だと思う。４０分後店に戻ったが長いこと待たされて結局入ったのは受付から１時間もたってからだった。薄い酒を飲みながらカラオケをする。泉の選曲も歌のうまさも知っているはずだったのにやたらいらいらする。「今日はのどの調子がよくなくて」なんて寒い言い訳をするものいつものことなのにいらいら。ひろ子も想像していた以上にヘタで聞くのがつらい。でもそれ以上に、こんな自分と付き合いを続けてくれている二人にいらいらしている自分にイライラした。なんの根拠もないが、もしかしたら奈都子も自分に対してこんな気持ちをもっているのかもしれない。もう電話も帰ってこなくなった。彼女のことを考えるとなぜか失恋よりも気持ちが苦しい。あたしはどこかおかしいのか。アルコールが回るとだんだん寛容になってきて、でもやっぱりときどきいらいらして、なんだか妙な気持で別れた。あたしはつくづく孤独の星の下に生まれついているのか。人といるのが向かないって、つらい。

七月十日。カラオケから出た後マックで時間をつぶす。仕事の愚痴をずいぶん聞いてもらってしまった。二人と別れてからまた少し時間をつぶして、それからココスの朝バイキングにいった。からあげと貝の炊き込みご飯がおいしい。御倉と納豆と生卵を潤滑にして

４回くらいリバった。何回も隣の席の客が入れ替わるのがおかしかった。家に帰ったのは昼近くだった。夜母の誕生日の祝いでウナギを食べに行くという。父が母にコブクロのアルバムをプレゼントしているのをみて慌てて自室でなにかあげられそうなものがないかと箪笥をあさったら未開封のハンカチが出てきた。渡すと喜んでくれたが、値札がはがれていなかったせいで値段がばれてしまった。どうしようもない。妹が帰宅するのをまってみんなで魚庄にいった。１５組並んでいたのであきらめて、なぜか坂東太郎で鍋焼きうどんを食べて帰ってきた。なんだかいまいち話に入れず不機嫌になっていたのを悟られてしまう。家族ですらうまくつきあえない。本当にこの世の中は人とうまくやっていけない人間にとっては地獄だ。明日だって早く帰ってくれば一緒にウナギが食べられるのよ、と母が言う。まさかそんな空気の読めないことはできない。私はもう小さい、可愛い、二人の葉子ちゃんではないのだから。父と母の間に入って二人の手をつないでもいいのはその子供だけだ。いまではもう母の一部だったころよりわたしがわたしであった時間のほうがずっとずっと大きくなってしまった。相手のことを「いつまでもわたしのものだ」と思っていたのは母ばかりではない。それなのに、それでも、わたしはそう遠くない未来ここを出ていかなくてはならないのだ。たくさんの傷をみんなに残して、自分も傷ついて、それらを一つも修復できないまま不完全な人間のまま去っていかなければならない。葉子にはそれがとてもつらかった。

七月十一日。だるい。

七月十三日（前書き）

七月十三日

七月十二日。相変わらず１Ｃの授業が酷い。なにがそんなに面白いのか大声で喚き散らし、雄たけびをあげ、体を机の向く方向に対して不自然に捻じ曲げる。黒板のある方を向かないというのがかっこいい高校生のポーズということになっているのだろうか。ボトムのホックを外しずり落ちそうなものをベルトで腰に留めるって、なに？トイレから慌てて出てきたの？変だよ？髪を立たせるのはいいがその大きい顔をそれ以上大きく見せていったいどうしたいんだろう。彼らは頭と顔が大きいほどイケメンだという、私とは違う文化圏に住んでいるのかもしれない。やたら胸元を空けたがるのもよく分からない。女子も女子で、出していい脚と悪い脚の区別もつかないらしいし。とりあえず顔が大きい子はそのへんなポニーテールはやめたほうが無難だと思う。

久しぶりにまた過食嘔吐してしまった。カップめんとＭＯＷと値引きされていたブランデーケーキを一気に食べて、家に帰ってチョコアイスを追加して吐いた。なんとなくすっきりしなくて水を流しでがぶがぶ飲んでから吐くと胃液とともにほとんど消化されていない面がどさっと出てきた。ケーキのほうが後に食べたのに。ということはまだまだ胃の中に残っているのかもしれない。週末プールに行く予定が入ってしまったのでもう少し吐こうかと思ったが面倒くさくてやめた。そのあと文字どおりの意味で何食わぬ顔をして階下へ降り、家族と食卓を囲んだ。夕食後物足りなくてナッツをつまんでいたらスイッチが入り、取っておくつもりだったパイナップル味の氷結に手を出して２ラウンド目を始めてしまった。お金をどぶに流しているみたいだと情けなさに泣いたのがついこないだなのに私は全然懲りてない。

七月十三日。三年の授業で、手首の十字について生徒に追及された。葉子はその場ででてきた適当なことをべらべら言い訳しながら、

顔から火が出そうな気分を味わっていた。なんだってあの頃の私はリストカットの傷に墨汁を流してみようなんてことを考えたんだろう。自分自身のことなのに全く理解できない。
「刺青かなっておもったんすけど、そんなヘタな刺青わざわざいれないっすよね」
生徒の言葉に教室が沸いた。葉子も力なく笑いながら、いつもかわいらしく見えるその生徒を絞め殺してやりたいと思った。余計なことばかり気にしてるんじゃねえよ。くそがき。本当にどうかしていた。でおあの頃の自分は自分自身に一生後悔するような傷を負わせてやりたいと考えていたし、実際それはいまだ効力を発揮している。私の望みは叶ったのだ。
やっと授業が終わったと思ったら学校紹介のパンフレットを袋詰めする作業が待っていた。弁当を慌ててしまって（食べてからおいでと言われたが、出遅れるのは嫌だったし、なによりそんな状態で物を食べるくらいなら食べないほうがましだ。葉子が世の中で一番嫌いなことの一つに「せかされること」がある）
食堂の奥にスペースがあり、その部屋には紙が山のように積まれていた。五種類の紙たちをそれぞれ決まった順番で重ね、ビニールの手提げ袋に詰める。第二学年でのノルマは１４００部だ。学年の人数分で割ったらまあそれなりの時間で終わるだろう。しかし実際はそうではない。
「すいません、指導行ってきていいっすかね」全然すまないなんて思っていない口調で藤本がほんの申訳ばかりに詰めたいくつかと残りの紙束をどすっと残していった。
「すいません、塾訪問行かなくちゃいけなくて・・・」塾訪問はテスト期間中に済ませておくべきものなのだが。上村は自分なら許されるだろうと全く疑わない表情で阿部に告げた。
「なんで私に言うのよ」阿部も緩んだ笑いをしながら答える。
「いや、やはり班長に、と思いまして」
どっと笑いが起こる。葉子はずっとうつむいて早くも痛み出した

手首を気にしないように努めながら作業を続けた。
「まぁ班長だよね。阿部先生だけ最初からずーっとここいて働いてるし」
最初から一度も席を立たずに作業をしているのは葉子も同じなのだが。葉子は昔からこうだ。成績だって運動だって、いくら葉子のほうが出来が良くてもみんなの前でほめられるのはいつも自分以外だった。人から好かれない。特に好かれたほうが得になるような人には絶対に好かれない。勘弁してよ、臭い、きもい、近くに寄らないで、と思うような人間が仲間を見つけて嬉しいとでも言いたげに葉子にすり寄ってくる。汚いものに近寄られると自分がますますみじめで汚いものになる。
「そろそろ僕も塾訪問に行かなきゃなぁ、早くいかないとなあ」隣で五十木が誰に言うでもなく、しかし周りに聞こえるように呟いている。塾訪問で逃げられるのなら何十件でも回ってやるよ。果てしない単純作業に葉子はひたすらいらいらしてくる。
「樋口先生、だんだん雑になってる」資料をだんだん角を揃えずに組むようになったのをいさめられる。
「すみません」
短い会話はそれだけで終わる。葉子がこんなにいらいらしているのは葉子以外の教員たちが仲睦まじくおしゃべりをしていることにもある。なぜだろう。あの輪に入りたいという気持ちはみじんもないのに、近くで見ているといらいらする。これも昔からだ。輪の中に入りたいという気持ちはないのに（事実入っても少しも楽しくなかった）人の輪を見ていると気が焦って妙な感じがしてくる。
いつの間にか作業の仕方に決まりができていたらしく、それに気がつかなかった葉子はきまりの悪い思いをする羽目になった。
「このほうがわかりやすいから」
じゃあせめて一緒のテーブルで作業している私に説明してくれてもいいんじゃないか。なにがしたいのか教えてくれないと何をしたらいいのかわからない。わからせてくれない癖にこちらがとりあえ

ず自分なりに考えて動いた結果を余計なことしやがってみたいに見るのは勘弁してほしい。なにより、どうして自分の思いついたやり方が最高で至上だと思っているんだろう。いや、私の優先順位とか考え方のほうがおかしいのかもしれない。いつもいつも属する集団において「天然」だとか「ＫＷ」だとか思われてきたんだから。葉子にはほんの小さな子供にだってわかることが分からない。目の前にあるものが視界に入らない。誰もが気がつく大きな音が聞こえない。どんなばかにもできる簡単なことができない。できそこない。失敗作。障害者になりかけ。白痴。油虫以下。死ねばいいのにこんな汚物。

まだ水曜日。土日も部活だし、最近葉子はほんとうに、生きるために働いている牛馬のよ持ちがしょっちゅうする。牛や馬のほうが自身の不幸を顧みるあたまがないだけまだしもましかもしれないと思う。こんなに頭が悪いのにあたまがあるのが私の不幸だ。そう、葉子は思う。いっそ気が違ってしまったほうがよっぽど楽かもしれない。

七月十四日（前書き）

七月十四日

顧問がまたわけのわからないことでキレた。自分自身も真剣に諭しているつもりなのを生徒から「キレた」とされてはらわたが煮えくりかえる思いをしたが、なるほどあれは確かに「キレ」てる。

人間どうすると間抜けに見えるかというのがよくわかった。

いったい彼はうちの部員たちに何を望んでいるのだろうか。体育会系に自己中なやつが多いから体育会系は嫌いだといつか行っていたように思うのだがそれは自分の気のせいだったのだろうか。

「すいませんでした」

「すいませんじゃねえんだよ。おまえら何が悪かったかわかってんのか？」

「はい」

「はいじゃねえよ。わかってねぇだろ。うそついてんじゃねえよ」

「うそついてません。体育館にいました」

「いなかっただろ。二時から練習だって予定表にもかいてあったのな。あ？なんだよ、なんでお前が切れてんだよ？」

「きれてないです」

「きれてんじゃねえか。おまえほんとになんにもわかってねぇな。やめちまえ、学校やめろ。迷惑なんだよお前らみたいなやつがいると」

・・・なにをさせたいのかさっぱりわからない。謝っても受け付けないし、黙ってれば怒鳴るし、質問に答えればやっぱり怒鳴るし。

４０分近く好きなだけどなり散らした顧問を仕方なしに追う。

「先生」

「や、樋口先生。どうもすみません」さっきの今でニコニコしている。

「あの、これからどうしたら」

「いやいいんですよ。僕はもうあいつらのことなんかなんにも知り

ませんから」
うそつけ。趣味も恋人もいなくて部活しか居場所がなくて夏休みにちっとも休めない予定組んだ癖に。唯一自分が王様でいられる部活って箱庭が好きで好きでしかたがないくせに。ていうかなにその顔。裏表使い分けちゃうじぶんかっけーとか思ってるんですか。
そもそも、うちの子たちが規律ある行動とか時間厳守とか、できると思ってんですか。できないからこそここにいるんでしょうが。あんたの要求は脚のない人に歩けっていうようなものです。
今日講堂で薬物乱用に関する講話がありましたけどね。あんなのでたらめですよ。薬物は別に悪くない。っていうかただのモノに、いいとかわるいとかそういうものありませんから。薬物で身を持ち崩す人はね。たとえ薬物と出会わなくたって、遅かれ早かれ何か別のもので破滅するんですよ。それだけの人間だったってだけです。それをモノのせいにするのはどうかしている。ギャンブルだって薬だってお金だって恋愛だってセックスだって車だって掃除だって水だって猫だって太陽だってタバコだって観葉植物だってダーウィンだってシェイクスピアだってＡＫＢ４８だって田村正和だって洗濯機だってかぴパラさんだって怒りや、嫉妬や、怠惰や、悲哀や、空気だってある人にとっての破滅のスイッチ（あるいは原因）になるわけだけど、それらが悪いわけじゃ決してない。モノでだめになる人は、結局それだけの人間だったってこと。進化論だよ。弱い種は滅びて強い種だけが生き残る。たった一粒の種のくせに思考能力があるから人間だけはこうやってぐちぐちぐちぐち悩まなきゃならないわけだけど、その悩みだってしたってしなくたって同じようなもの。経路がどうねじ曲がってもひとは自分が生まれついたようにしか生きられない。
ふう。
とりあえず、自分の武勇伝ときれいな理想論をここで、世の中のくずの吐きだまりでドヤ顔して語るのは勘弁してほしい。
明日の授業がいや過ぎてリバった上にビールまで飲んでしまった。

ろれつがあやしい。
ようこちゃんは寝ます。明日もあるし。おやすみ！

七月十九日

七月十五日。一年が酷い。なかなか帰れない。過食が酷い。
七月十六日。暑い。地獄の釜の中のよう。スポーツもスポーツする奴もみんな大嫌いだ。全員苦しんで死ね。私をまきこむな。一人スイパラで隣に座ったギャルに化け物扱いされる。聞こえてるってわからないかな。服も化粧品も買えないのに食べ物ばかり買ってしまう。家についたとたん号泣。もういやだ。
七月十七日。同上。うざいうざいうざい。しかも遠征でさらに一日休みがつぶれる。みんなしね。
七月十八日。海の日だけどプール。小渕がキモイ。体がぶつぶつとなにかの跡だらけだし歯並び悪いし色が歯の途中から色変わってる。マジ勘弁してほしい。早く彼氏ほしい。不細工嫌い。
七月十九日。疲れた。日曜休めないこと確定。マジ顧問死ね。一生懸命書いた文章が消えてショック。このパソコンおかしい。

七月二十六日

七月二十日。台風がすごい。気分がすぐれなくて仕事が終わるのが待ち遠しく、仕事を言いつけられる前にそそくさと帰った。全部雨と風に流されればいいのに。

七月二十一日。まだ学校がある。この日もそそくさと帰る。そうだこれくらいに帰るのが人間の仕事だ。

七月二十二日。まだ学校がある。夏休みの宿題作りがかるく怒涛だった。仕事だらけで帰れない。ボーナスよこせ。過食嘔吐が止まらない。一応付き合っていることになってる歯並びの悪い男が誕生日らしい。どうでもいい。プレゼントとか面倒くさい。とりあえずメールだけしておく。日焼けがようやく痛くなくなってきたと思ったら背中から腰から尻から黒くまだらに汚く焼けていた。せっかくきれいな白い肌だったのに。そんなはずはないけど、もし戻らなかったらと思うとぞっとする。めんどくさい。来週も土曜出勤なのにまた土曜出勤かよ。

七月二十三日。土曜出勤。生徒指導要録のファイルに背表紙を作らなければならず六時間残業。あほかと。ファイルくらいけちけちしないで背表紙のある奴を買えよ。紙印刷してテープで張ったり、正直貧乏くさいし、ていうかこの時代に紙媒体ってなんなの。過食嘔吐が止まらない。

七月二十四日。ボラボラでランチフリータイム。楽しかったけど衝動に負けてはいたら喉が死んだ。最悪。ソイジョイのお試し版を五個かっぱらってきた。頑張ってスカートを一着とまつ毛美容液を買った。買ってからもっといいスカートがみつかっていらっとした。明日から研修。

七月二十五日。やっぱりわたしは人と話すのむいてない。相手がつまらなさそう&引いてるのが分かる。私だって話したくないのに。母が友達作れとか言ってきて中学校以来の「イラ」。友

達友達友達。友達がいる奴全員死ね。人づきあい分からなすぎてもう積んだ。わらびもち食べてはいた。

七月二十六日。成績原票の登録にミスがあった。期末は評定だけって言ったじゃん。それとも私が小林先生の助言を一部分だけ聞き逃していたのか。はじめ言われてなかった！とか思ったけどなんだか言われたような気もしてきた。そもそも出した先生みんなに入力した？って聞かれたのに自信満々でしたとかいってて自分を殺してやりたい。「評定だけいれればいいんですよね」って言ってれば「え、違うよ」っていってくれたかもしれないのに。土曜日に音楽室の掃除を勝手に判断してやらなかったことも思い出して本当に今死にたい。このままどんどん失敗してみんなの信頼を失っていくのが怖い。もう失敗しないといっていつまで信用してもらえるんだろう。悪い想像しか頭に浮かばない。一人スイパラでまた二千円をどぶに流してしまった。こんなに苦しいいいやな思いをして稼いだお金なのに全部トイレに流れていく。手首を切りたくなってくる。こんな人間は罰しなければならないという気持ちがぐんぐん大きくなってきて怖くて仕方がない。明日も明後日もし明後日も永久に来なければいいのに。学校に行くのが怖い。人に会うのが怖い。仕事をするのが怖い。子供のころから今までずっと、大人になっても私は学校が怖い。

八月二日（前書き）

八月二日

七月二十七日。研修最終日。ここにきていきなり睡魔がやばい。午前も午後も若干船をこいでいた。終了後同期の四人で飲みに行く。２７０円居酒屋に入るが、あまりにも食が進むのに恐れをなして途中で帰ってきた。全額割り勘されたらいや過ぎる。あたしは酒を飲むときはご飯を食べない主義なのに。家に帰る前にスーパーによってまた過食嘔吐してしまった。カップめんとスナックとアイス。たった三百円でこれだけの食材が買えるのにと思うと外食なんてもったいなくてできない。できてもビュッフェだ。胃液まではいたらさすがにくらくらした。明日学校に行ってあたしが原票をいじった先生方に謝り倒さなければいけない。なにか胃の一部が超薄型コンドームみたいに透き通ってる気がする。何かの拍子にぱちんと破れそうな気がする。

七月二十八日。朝からめちゃくちゃに謝って回った。自分がだめな人間ですと体中に塗りたくって過ごしている気になって、かなり落ちた。成績会議はひたすら眠かった。何を話していたのかいまいちよく覚えていない。校長と席が一番近いのに。もうやだ。

七月二十九日。学年登校日。いったい何のために来ているのかよくわからない日。夏休みなんだから休ませろよ。日曜にカラオケ行くのだけが楽しみ。そのためになんとか過食しないですんでる。部活が本当にうざすぎて家に帰ってから涙が止まらなくなった。情けない。でもやっぱりうざい。スポーツとそれにかかわる人間とモノが死ぬほど憎い。気持ち悪い。大っきらいだ。

七月三十日。学校説明会。説明会自体は結構早く片付いたけどそれからの午後が長かった。就業時間を過ぎても部活が終わらない。頼むから拘束する用事は定時までにしてほしい。お盆は誰が何と言おうと休んでやる。お母さんだって知るもんか。正社員になるより今現在の心の平穏が大事。それに仕事はちゃんとやってる。今の部

活は就業前に約束した範囲を大きく逸脱していると思う。あれはきちがいの所業。父と母は今日から白馬へ旅行。夏の白馬って何を見るんだろう。妹が帰ってこないと家に入れないからｐａｐａのほうまで行って時間をつぶした。ポップガールが閉店するらしい。セールでデニムのショートパンツとヌーブラを買った。占めて２０００円なり。最近少し足が細くなって嬉しい。脚は使わないほうが細くなる。眠れなくて三時過ぎまでネットで遊んでいた。

七月三十一日。朝から大宮に行こうとしたのに起きたら１１時だった。慌てて起きて、妹も起こして最近お気に入りのカラオケ屋に行った。十二時過ぎ、初めて水槽付きの部屋に通してもらった。靴を脱げる形式でテンションが上がる。サラダバーに見たことがないグラタンと肉みたいなハムと魚のマリネがあって嬉しい。ここはデザートと七八百円相当の選べるメインとサラダ、ドリンクバーがついて六時間千五百円のカラオケなのだが、どうせならサラダとデザートなしで千円くらいにしてほしい。力を入れるところが間違っていると思う。今日は吐かないと決めたので喉の調子がいい。持ってきたデジカメで曲を録音するが意外と動画の容量が小さくて面倒くさい。四ギガじゃ足りないらしい。レールガンで１００店出すってどんな初音ミクだよしかし。

終わってから彼氏かもしれないでも歯並びと歯の色と口臭がどうしても嫌で嫌でしかたがない相手に誕生日プレゼントを買わなきゃいけないことに気づき丸井へ。ポールスミスの名刺入れと一途の望みをかけてファッション誌を買った。頼むからこの程度のセンスを身につけてください。明日から夏期講習だ。冷凍してた団子と半額パンとそのたもろもろで存分に食べてはいた。このくらい自由にさせてほしいよね。

八月一日。夏期講習一日目。めんどい。キモイ生徒が最前列に陣取っていて顔を見るだけで本当に吐きそう。鼻の穴が気持ち悪過ぎる。なんであんな顔面で生きていけるんだろう。こないだ代行したクラスにも物凄いデブで臭くてふけだらけで、しかも女な生徒がい

たけどあれが自分の１５歳だったら私は自殺してる。死ぬより辛いことっていっぱいあると思う。呼吸する生ごみのほうがまだましな存在だと思う。肥料にもなるし。そのうち担任を持つかもしれないけど、不細工はともかく不潔な生徒だけは私絶対差別しない自信ない。気持ち悪い気持ち悪い気持ち悪い。あああああ。親がどら焼きを土産に帰ってきた。焼けそうに甘かったけど気持ちは嬉しい。楽しかったみたいでよかった。

八月二日。なんで就業は５時なのに六時まで部活なのか本当に意味がわからない。午後から事務の手伝いをなぜかすることになって厚紙を切ってフィルムで加工して裏面にシールを張る作業をしていたら入ってくる教員たちから同情の目で見られた。帰る前になんでもはいはいきいてると雑用をおしつけられるから気をつけろと忠告までされた。私からしたら部活とかやってるより１００万倍もましなんだけどな。ほんとスポーツに携わる人間はみんな苦しみぬいてから死ねばいい。アディダスとかヨネックスとか津波に飲まれてなくなれ。個人個人に恨みは全くないが、私はとにかく体を動かすのとそれに付き合わされるのが大っきらいなんだよ。みんな滅べ。

夕飯のパック寿司を半分残してしまった。でも午前中にもみじ饅頭と煎餅とどら焼き食べたからカロリーは取りすぎなくらいだと思う。体重も増えてたし。夏休み中にできたら三キロ落としたい。今年はなんだか行けそうな気がする。倒れそうなくらい細くなればみんなわたしにやさしくしてくれるような気がする。こんな見た目だから何もかもうまくいかないんだ。不細工でも細ければなんとかなるかもしれない。

八月三日

今朝、明後日の夜に脱毛サロンの予約を入れた。カウンセリングを受けないと施術はしてくれないらしいが、いろいろごたくを並べてカウンセリングだけにされたらむかつくなあと思う。

最近部活で練習の手伝いまでさせられるようになった。汗をかくし非常に腹立たしい。食べる量が減って運動量が増えたのにちっともやせないのはきっとストレスのせいだ。もうほんとに部活動とか考えたやつ死ね。あと普通のTシャツ来てるだけで胸があいてるとかなんとかいう奴も死ね。なんでもかんでもそういう目で見てるからそういう風にしか見れないんだよ。本当に死ね。簡単に殺されるゴキブリとか蚊とかに対して死んで謝れ。首元が詰まった服を着ると顔がでかく見えるから嫌なんだよ。どうしてこの世では美形と不細工がいて、しかも不細工には不細工を隠す手段すら取らせてもらえないんだろう。そのくせ人間は見た目じゃないとかまじうける。美人にしろと肺はないが、せめて加工させろ。

八月七日

八月四日。夏期講習最終日。生徒の一人がうるさいから模試対策をとってやろうそしたのにその子だけピンポイントで休み。何考えてんだか。河合模試は難しすぎたらしくぐだぐだな９０分間になった。

最近部活でのシャトル上げが完全に自分の仕事になりつつある。うっかり顧問の説教タイムに残された生徒にシャトルあげていたせいのような気がする。一回二回、ひまなときとかならいいが、ノルマになってしまうと正直うざい。右手ばかり使うと半身だけが疲れるのでどうにか左手でもなげられないか画策した結果、左手投げのスキルまで身につけてしまった。何の役にも立たない。

自分が意味がないとか、嫌いだとか思っているもののために時間や労力やお金を使うのは、それらがたとえ痛くもなんともない負担だったとしても精神的な消耗が大きい。だからわたし水泳とスキー以外のスポーツはことごとく嫌いなんだってば。特に暑い思いするのは最悪。シャトルを拾うたびに膝を曲げているせいか、就職してから少し細くなったはずの脚が早くも発達しかけてきている。前腿が堅い。「・・・・・・」

家に帰ってから明後日の彼氏かもしれない人のお誕生日お祝いのために代官山のイタリアンを予約した。青山のフレンチにしたかったのに。イタリアンの店は単価が高いらしくて正直コースを頼む意味がわからない。でもアラカルトで料金の上限が予想付かないのもいやだし。相手が男でなければ表参道のブルガリがやっているカフェに行ってみたかったのだが。鳥の餌みたいな量のお上品なランチで相手がおなかをすかせるのもかわいそうだ。

八月五日。町役場で住民基本台帳カードの申請をするため午前休みをとって午後から部活のためだけに学校へ行く。パスポートか免許証がないと一回目は申請しかできない。母親に余計なことを言う

となんで身分証がいるのかとかぐだぐだ聞かれまくった上に、変な勘繰りまでされそうなのでいつもと変わらない時間に家を出た。コンビニで一時間漫画を読んで、ほぼ九時ぴったりに役場に行った。そのあとは特にやることもなかったが休みなのに学校に行くのもばかばかしくふらふらしていたが暑くてとてもいられなかった。こういうとき本当にこの街はいらいらする。お茶を飲むところすらないのだから。公園で弁当を食べたら蚊に刺されまくって、食べている最中もよくわからない羽虫がぶんぶんとんで、本当に不愉快な思いをした。胃の調子が悪い。コーラックのせいかもしれない。あれをやるとおなかが下るだけじゃなくて吐き気とか悪寒もでる。それにあれで出すものは異常に臭い。真っ黒で、べたついていて、水っぽいのがでる。絶対体に悪そうだけれど、普通食を普通量食べるとなんらかの代償行為をせずにはいられない。こんなにブスなのにこれ以上デブになったら目もあてられない。

部活は顧問が進路指導で顔を出せなかったせいで非常にのんびりしていた。体育館は蚊が多くて、虫よけをしていたのにまた刺された。うちの部活しかいないときは窓も開けてないのにどこから入ってくるんだ。顧問は終わりのころちょっとだけ入ってきて、水曜日の午後から遠征に行くと嬉しそうに言いだした。頼むからちょっとくらい私にも選択権をください。午後からでしかも遠征じゃほとんど一日そのために使わなければならない。なんでこの男はこんなに私の時間をどぶに捨てさせるのが好きなんだろう。暇なのはお前だけだわたしを巻き込むなくそやろう。手取り２０ないんだぞこちとら。毎日四時間以上サービス労働して、研修とかにも行かされて、もういやだ。誰でもいいからリッチな専業主婦させてくれる金持ちと結婚したい。もういやだ。

八月六日。代官山で待ち合わせなのを母にぐちぐち言われた。現地集合現地解散なんて愛がない証拠だ、かわいそうだ、おまえは人でなし。あんまりだと思う。だってタクシーとかちゃんとした車ならともかく、軽自動車とかＪＲとかで隣に座っててもも正直冷めるだ

けだし、うざい。わたしはそもそも他人が一定距離内にいるのがストレス。相手が自分に好意をもっていてもそれは変わらない。というか、大方のまともな人間は私のことがきらいだし。自分を嫌っている相手と一緒にいたくはないよね。

渋谷から歩けそうだと思ったら原宿のほう近そうだったので原宿から表参道まで歩いたがやっぱりなんか違うみたいなのでまた原宿、渋谷と戻って渋谷からあるいたらなぜか恵比寿について、それからなんとか時間ぎりぎりに代官山についた。

食事はまずくはなかったけれど三千円の価値があるかというと微妙。代官山のマンションがどれもこれもきれいで、こういうところに住みたいという気持ちがむくむくしてきた。少しの間でもこんな暮らしができるなら体でも臓器でもうっぱらってしまいたい。なにもかもがきれいで品がある。坂が多いのも素敵。でも相手は尻の座りが悪いらしく、渋谷に行こう渋谷に行こうとあっというまに代官山を連れ去られてしまった。

恵比寿で前登録しかけてビビってやめたプロダクションのビルをみて鬱になった。なんで大学時代にやっておかなかったんだろう。キャバクラより人にも言えるし、いろんな出会いもあったかもしれないのに。いまショートパンツをはける足になってからはさらに後悔することしきり。やってみたらいろいろできたかもしれないのに。もしかしたら代官山に住まわせてくれるようなひととの出会いもあったかもよ。でもこの仕事をしているかぎりそういうことには手は出せない。ていうか、もうそろそろ「トウが立った女」になってしまう。いやだ。若さを無駄に垂れ流してしまったことが悔しい。まだ間に合うとかいう人いるけど、もうこれからイベコンはどう考えても難しいよ。脱毛もコンパニオンもメイドカフェも整形ももっと早くしておくんだった。悔しくて悔しくて仕方がない。なっちゃんが誘ってくれなかったのは私がブスだからか。くやしいくやしい。もしかしたらあの程度のことならできたかもしれないのに。もうやだ。お似合いのひととなんかいたくない。今一瞬の損得だけの付き

合いがしたい。深いのとか重いのとか本当にだめなんだ。人の善意が気持ち悪い。ぬるくてべたべたして、耐えられない。不幸体質だってわかってててもいやだ。理屈なんかなくて、ゴキブリをみたらうわきもって思うようなもんで、私は「まともな」ものに拒否反応が出てしまう。それがいやなのかそれをきらってしまう自分がいやなのかわからないけど自己嫌悪ではちきれそうだ。

ストレスで一万くらい安物買いをして、家のまんぱんのクローゼットを思い出して鬱になり、池袋のお見合いパブで変な男とつい飯を食べに出てしまいタクシー代もくれなかったのにまたいらいらを蓄積させて、ひたすら不機嫌で家路についた。

八月七日。気分は変わらず。カラオケに来たのにぜんぜん気が乗らない。くやしいくやしいと後悔ばかりが胃をせりあがってくる。明日から仕事だしもうやだ。体重はまた増えた。いいかげんにしろよ食うなこの白豚。

八月十一日

八月八日。部活のためだけに学校へ行く日。様子がさっぱりわからないので四十分前についたが、さすがに今日は人が少ない。今日も当然のようにシャトル上げをやらされる。いやでいやでしかたがなくてどこかで針が振り切れたらしい。妙にテンションが上がって、あたまに上った血が降りてこない。東京行きの計画がなんだか面倒くさくなってきた。涼しい部屋でネットだけして過ごしていたい。午後ココスのドリンクバーで彼と二時間近く話をした。私はファッション誌（自分の好みではないが精一杯妥協した結果の相手が好きそうなジャンルの。相手が好きそうとはつまりリュックを背負えるか否かだ。たのむから街中でナップザックとしかいいようのないずたぶくろを担いで歩くのやめてください。両手が空いてないといやだっていうけどあなたの両手がいったいあいていたからどんな生産的なことが起こるっていうんですか。そんなにひたすららくにらくにすごしたいなら精神病院の拘束服のなかで栄養点滴で生活すればいいよ）、彼はわたしにこの間のキャンプで行った河口湖のお土産をもってきた。山梨の赤ワインだった。大事に飲もう。

八月九日。あまりにあつくて疲れてたぶんそれが生徒にも伝わっていたんだろう。なんとなくきまずかった。顧問は相変わらず声を出せ声を出せってうるさい。ええい、とかおおい、とかあの掛け声にいったい何の意味があるのか、文系の血しか流れていないわたしにはまじさっぱりわかんない。こいつセックスんときもこんな調子なのか？疲れると、若いとろいＯＬにセクハラするおっさんの思考トレースをしてしまう。役場に行って住民基本台帳カードをつくってきた。このまえと同じ顔触れ。書類を受け取ると「ちょっと待ってください」といいながら一人が引っ込んであとのふたりはにこにこと内輪のおしゃべり。ちょっとといいながら十五分はもどってこない職員にいらついておしゃべり女どもにいつまでまてばいいのか、

ときくと「少々お待ちください」だからいつまでってきいてんだよお前の脳みそここ連日の暑さで腐ってんのか。家についたのは3時。それもこれも一時過ぎまで部活をやる顧問が悪い。ほんとうに苦しんで死ねばいいのに。スポーツやってる奴は全員不治の病にかかって苦しみながら死ね。明日は顧問の前任校にいかなきゃいけないし。夕飯前にいらいらしてエビスの大きいほうを飲んでしまったら父に嫌がられた。ああ本当にもういや。チックに体入予約入れてしまったらそっちのそわそわが大きくて少し治まった。こういう意味でやっぱり私には水だの風だのの空気が必要だ。カンフル剤的な役割で。

八月十日。最悪としか言いようのない一日だった。家を早くに追い出されて胃が落ち着かなくて王子でとこか店でも探してカショろうとしたらほんとうになんにもない。きれいなトイレがありそうな店も皆無。千葉の田舎に来ているみたいな雰囲気。東武ストアの場末感がパ無い。そして暑い。気が狂いそうになるほど暑い。毎日毎日汗だらけになる。洋服も髪も洗わなくちゃういけなくて摩擦で消耗が早まる。夏は若さというよりは老いとか衰えの季節だ。すべてが死に向かって一直線に動いている気がする。そしてついた体育館は汚い。とにかく汚くてあつい。どうしてあいつらあんなに戒律厳しいくせに練習場所がほこり臭くても平気なんだろう。トイレは言ったスリッパでべたべた歩いてるところで腹筋運動始めたりしちゃいうあたり部活人とはとにかく衛生観念が合わない。ここであと七時間。本当に死ねよ。おまえもおまえもおまえもおまえもだよ。しねしねしね。若い貴重な時間がこんなところで蚊に食われて（蚊が酷い。いまこうしていても羽音が、虫が血をすおうと皮膚の近くに当たる感触が、する。気持ちが悪い体中がかゆい）浪費されていくと改めて感じさせられて泣きそうになる。わたしは刺された跡がきれいに消えてなくなる性質ではないし、たとえ消えたってそれまで赤い斑点が白い肌に梅毒患者みたいに残っているのは目に不快だ。おまえのクレーターみたいな皮膚がどうなろうがおまえも他人も気にしないんだろうが、わたしのは別なんだよ。生徒たちと距離の取

り方を間違っていた気がする。なんでわたしにアイスをおごってもらえるとか考えるんだろう。おまえらはわたしという人間をちからいっぱいおろし金におしあてて痛い痛いと泣きわめくわたしをずりずりおろしてすりころしてしまおうとするたくさんの手のなかの何本かなんだぞ。加害者なんだよ。冗談じゃねえ。さとられまいとにこにこへらへらしていたのが完全に裏目。私がこんなにつらい思いをして月に１４万だかそこら。セックスが平気なあたまに生まれたかった。せめて風俗のアルバイトでもして毎週末に２０万ぐらいずつ入ればもう少しこころも穏やかになるのに。こんな思いをしてこんな少ししかもらえないなんて。事務の試用期間中の小川さんに電話をしてみたら向こうも向こうでとんでもない労働環境らしい。これから先何十年こんな生活を続けることを思うとあんなにきらいな子供を産んでもいいかとか思ってしまう自分がいる。それくらい仕事がつらい。

八月十一日。とりあえず六本木に来てみた。有楽町線が止まったせいで新宿から六本木まで４０分近くかかってしまったあげく３０円をけちって六本木一丁目から歩こうなんてしたせいで件のスタバについたのはもうお昼になるころだった。汗をかいたのと足が痛いのと途中セレブを見すぎたせいで完全にグロッキー。東京のガイドブックで食べ物を眺めるだけで四時になってしまった。ワンピースを着替えて、駅のほうへ向かう。先に店を見て置いてみたかった。・・・たしかになんだかすごかった。チック、キンコンカ、瀬里菜、グランクリュ、聞いたことのある店ばかり、行きかうひとはみんな頭蓋骨が小さい。行きたくなくなって本屋に行ったり、時間をつぶす場所を考えているうちに六時になってしまった。電話を受けて店に行ってエレベーターを上がる。ドラマで見たことのある豪勢ならせん階段、曇り一つない鏡の壁にゴージャスな雰囲気の椅子とテーブルが並び、いかにもキャバクラ。赤とゴールドと白で統一されたきれいな店だった。私以外にも面接が２人きていて、大したことないギャルっぽい感じだったので安心していたけれど目の前に座った

面接官はあきらかに自分をみてがっかりしていた。ここで明るくはきはき対応していたらまた違ったのかもしれないけどすっかり委縮してぼそぼそ目線きょろきょろでそうでなくてもだめなのにきもさ倍増。やっぱり来なきゃよかった。後日連絡（＝不合格）だった。むかっ腹立ってシングルスバーでただ酒飲もうとしたら出禁になっていた。前回の二時間たったたってないのあれのことか。結局二時間座ったのに。あの女。マジ死ねよ。多分ここでまともに考えるあたまが死んだ。単価の安い池袋や新宿に行けばよかったのになぜか銀座の並木通りを歩いてスカウトのノルマ達成に使われて、どこにいくにも変な時間になって新橋の１５００円。汚い汚いうたひろで一晩明かした。マイクは臭いしすぐ音とぶしコンセントが少ない。というかそのまえに１１時まで時間をつぶすのがものすごく辛かった。ナンパも本当に暇な時に限って絶対かからないし。こういうとき付き合ってくれる友達がほしい。まあこんな思考に至ったせいで翌日と翌々日わたしはなかなかどうして後悔とイライラに苦しめられることになるのだが。なんとなく気乗りしないカラオケをまずい臭いお茶を飲みながら（これで１５００円・・・）猛烈にさびしくて悲しくて仕方がなくなった。自分がみじめだった。私は都市生活とか孤独とかに向いていない。ブスだし要領悪いしのろまでしかも怠惰だ。なのに憧れは捨てられなくて蛾みたいに光のありそうなほうをふらふら飛ぼうとして、ああもうお金がほしい。ひたすらお金がほしい。たくさんお金があって、きれいにきれいになればさびしさなんてなくなるはず。

八月十四日

八月十二日。今日も多分部活はあるけど構うもんか。昨日の引きずりでむしゃくしゃした気分のまま銀座まで行って有楽町線で新宿に帰ってきた。そう。帰ってきたのだ。やっぱり新宿と池袋は自分のホームだという気がする。知らない路地もないし、いる人間もいい程度に低俗だ。水商売の世界でまで見た目以上にコミュニケーション能力が問われるというまあよく考えれば至極簡単なことに気がついて葉子は結構すっかり落ち込んでいた。新宿靖国のミスドで新発売のベイクド紫芋を食べようとしたがどうにも自分の胃の状態がドーナツを受け入れられそうになかったので麺を頼む。あったかい汁のある麺類ってなんでこんなにおいしいんだろう。永遠に食べ続けられそうな気がする。知り合いはみんな（パスタ含む）麺類が嫌いだからけっこう普段はさびしい思いをするが今日は全くの一人だから気にしなくていい。なんだか明後日まで町にいられる気が全然しなくて、しかもちひろはなんだかいつも都内住みのくせに泊めてもくれないし上から目線なんで面倒くさくなって予定をキャンセル。泉に声かけたらオール付き合ってくれるらしいので泉と遊ぶことにした。それまえに御庭で和食バイキングして買い物して五時ごろ池袋に行った。なぜかやつはコーヒー一杯七百円もするくせに店内がざわざわ騒がしい喫茶店に入っていてむかついた。なんなのなんでこんなに見せ探すのが下手なの。隣同士近すぎだし窓の近くだから暑いし虫が飛んでてふくらはぎがどんどんぼこぼこになる。イライラしながら高いコーヒー。漫画のプロットをつくっているというから見せてと言ったら、なんとニーとになって四カ月、登場人物と設定のプロットしか書いておらず話の内容もオチもないらしい。そりゃ親御さんだって怒るわ。いったい今までなにしてたの。それでいったなんで徹夜とかしたのか意味分からん。絶対こいつ真夜中眠いとか疲れたとかいうぞといまから嫌な予感。というかまた太ったら

しい。だから新しい水着が見たいって・・・やせろよ。なんでそんなに太るの？吐かないあたしより食べないし酒も飲めないのに。しかも唯一きれいだった髪の毛すらなんか油でべっとりとしてあたまのてっぺんはふけが浮いている。こんなのでなんでそんなに水着が着たいんだろう。正直いやだ。デパートの水着売り場を引きずりまわされる。ギャルっぽい原色がいいらしい。かわいらしい水玉とかのほうがまだどうにかなりそうなのに、ピンクとか水色はガン無視。着れなくなった水着に色も形もそっくりなものを買ってしまった。あほじゃないだろうか。八千円とか。やせろよ。

ドンキとか見て、居酒屋でやっぱり疲れて不機嫌になってる。しかもがっつり食べたいとかいいつつ居酒屋。頼むから飯食うならファミレスにしてくれよ。なんで単価の高い店で飯食いたがるの。しかも居酒屋飯とか油と塩分ばっかでげろまずいものばっかりだし。アラカルトでガンガン頼む人って本当にいや。こっちは財布が気になってやっていられない。気を使う相手じゃないので、自分のビールを御通代だけ小銭をテーブルの上においてこれ以上払いませんよアピールした。実際これ以外飲み食いしてないし。みっともないのは承知だけどあなたの脂肪をふくらますのに投資する気もないんですよね。

八月十三日。朝四時にタイムズスパレスタにいって１６００円。久々のお風呂最高。せっかく一人じゃないのに相方はいつまでもいつまでもいつまでも体を洗っている。つまらん。本当なんなの。そんなにあなた汚いの。風呂に入っている間は元気だったしちょっと贅沢空間に喜んでいたが、出たらいきなりまた疲れたモード。デブが体力ないと無性にいらいらする。その脂肪ほんとむだだよね。あたしも気をつけよう。ブスとデブの体弱い自慢はイライラするだけだ。心配ですらない。うるさいのでさっさと帰らせる。プールの誘いは絶対無視しよう。ひとりでミスドにいってからいり豆に花で３Ｒ過食嘔吐した。しばらくこないからなんて思われてもいいや。午後美容院に行って、洋服とか見てから帰った。夕飯は家で食べた。

酒を飲ませてくれなくてむかついた。
八月十四日。おばあちゃん家につれていかれる。留守番でも車の中でも妹との会話はほぼ〇。なんであいつあんなにお高くとまってんの。わけわかんないオーストラリアでカンガルーにさらわれて行方不明になって数一〇年後にわけのわからない民族の長とかになってシドニーを襲撃して世界を未曾有の恐怖に陥れたりしていればいいよ。あるいはコアラになってしまえ。帰りの車で、おなかがすいたと言ったらこんなにおなかがすく人が仕事帰りになにも食べないでいられるはずがないと母が言うから悔しくて怒鳴って、涙が出るほどとりみだしてしまった。食べたい日と食べたくない日があるってそんなにおかしいか。本当にうざいあああああ。
帰ってから昼寝のつもりが七時まで爆睡。いきなり整理来る。夕飯食べすぎ、ソイジョイ食べても止まらない。いまここ

八月十六日

八月十五日。しながわ水族館に行く。駅の待ち合わせで何口か決めていなかったからぐだぐだして、靴が合わないせいで足が痛くてイライラして、ガキがわんさかあふれかえっているのでげんなりした。だから盆にどっかいくの嫌だったんだよ。何なんだこいつ。葉子はとなりの一応付き合っていることになっている歯の汚い男を見た。なんだかむしゃくしゃしたのでチケットのお金は知らんふりをした。請求されたらそのとき払えばいい。水族館は汚くて人でごった返していて不快だった。脚が尋常じゃなく痛い。そのあとなぜか上野までいってカレーを食べて、白いワンピースにしみつくった。もうこの服着れない最悪。まだ三回くらいしか着てないのに。靴を買ってはきかえた。そのあとアメ横をぶらぶらして東京駅に行ってサンパカでカカオソフトを食べて日比谷のインペリアルラウンジで酒をがぶがぶ飲んだ。食べ物があんまり高いので酒ばかり飲んでいてすっかり酔った。ビールをしこたま飲もうと思っていたのに結局一杯だけだった。オリジナルカクテルってやつが死ぬほど甘くてまずかった。なんとなく不穏な空気を感じていたら、別れた後家に夕飯を食べにこないかというメールを受け取ってしまった。埼玉県で、内定先が学習塾で、家の格もうちより低いし、万が一結婚したって私にも働かせる気満々らしいし、正直これ以上近づきたくない。とりあえず断ったけどどうしたもんだろう。

八月十六日。おばあちゃんちに行きたくないがゆえにけんかつの図書館で一応勉強していた。タンクトップにショートパンツというなんだか露出過剰気味な格好をしていることに気がつく。帰りヤオコーでしろくまをたべてマルエツで生クリームロールを食べたら過食衝動が来てソイジョイを3本も一気食いしてしまったがなんとかいまのところ吐かないで住んでる。家に一人ならマルエツで半額になっていたパンを買ってきて存分に過食嘔吐するのに。そわそわす

る。そろそろ学校が始まるのもいやだ。ていうかいつの間にか公立に行くって目標を忘れていた自分に愕然。わたし今すごくあたま悪くなってるし、いまからやってどうにかなることだろうか。

八月十七日

有楽町の銀座口に十一時半といったのに、来たのは三十分遅れますとだけのメールだった。携帯を逆向きに折りそうになった。大学の数少ない友人のりっちゃんはいつも葉子との約束に遅れる。多分相手があたしでなければ時間通りにくるんだろう。キャンキャンとかＪＪとかの雑誌をうのみにしていて、自分の装飾品にだけは金遣いが荒くて、体弱いアピールの多い痛い子だけど、葉子には友人がとにかく少ないのだ。というか、自分と友達になってくれるのなんてその程度の人間だ。そもそも昨日の夜から息が苦しいのでも頑張っていくだのうざいメールがきて嫌な予感はしていた。だから朝にも確認の意味で「今日大丈夫？」とメールをして、大丈夫だというから来たのに。家からここまで片道九百円以上する。葉子は「もういいよじゃあ」とだけ打って、昼食を取りに行くことに決めた。四年の付き合いだが、我慢の限界だった。ああこうやってわたしもいろんな人から切られてきたんだろうなと思った。きっかけとか動機とかっていうのは、嘘だ。ありとあらゆることはすべて幾重にも折り重なった時間の上に決まる。ニュートンのリンゴはただ最後のほんのひと押しにすぎない。何時間にも何日にも何年にも及ぶ観察と思考とが彼に結果をもたらしたのだと思う。

前から行ってみたかったリプトンのランチビュッフェに行ってみた。すごい行列だった。なので葉子は順番が来るまでに謝罪のメールが来たら許そう、とひとつかけをしてみることにした。行列は進まない。メール。「もうすぐつきます。まっててて」誰が待つか。

もうこれで友達の縁がきれても構うもんか。いらいらが物凄い。

三十分くらいで席に案内された。食べろぐで評判の良かったサンドイッチは具だくさんで確かにおいしい。鶏肉の脂身の多いところをクリーム煮にしたものも気に入った。パスタは惰性で取ってしまったけれど微妙な味だった。始めは普通の食事のつもりで食べてい

たのに、ケーキのせいでスイッチが入ってしまった。脂っぽいもの、炭水化物をちょっと異常なスピードでかっこみ、ケーキを無料の紅茶で流し込んだ。おいしいと思ったサンドイッチは気がついたら口に押し込んで呑み込むだけのものになっていた。全部おいしいのに憎たらしい。おなかがくちくなったせいで律子に対するいら立ちが治まって自己嫌悪に変わってきたのも過食を加速させた。六十分の時間制限をいっぱいに使って、二階のトイレで吐いた。脂っぽいものを詰め込んだ分気持ちいいくらいすっきりはけた。

そのあと暑い銀座をブラブラ歩いた。買いたいものはたくさんあるけどお金がない。明らかに水商売の女とその客であるような二人をたくさん見た。うらやましかった。ティファニーとかアルマーニとかヴィトンとかカルティエとかよくわからないけれどでもほしい。自分で買っても意味ない。誰かに買ってほしい。そういうのぽんぽん買ってくれるならセックスとかしたっていいのに。でもそういう機会は私にはなかった。もっとしょぼいのならあったけど。まああたしも何してあげたわけじゃないからしょうがないんだろうけど。まだ女として価値があるうちに高く売りたいけどあたしみたいな女が水商売以外でどこでそういう相手をみつけろっていうんだ。本当にあの家に生まれたのが疎ましい。大学ではキャバクラとか銀座のクラブとかでアルバイトして人脈創るつもりだったのに全部計画がぶちこわれだ。仕方なく出入りしていた出会いカフェは私の人格と男に対する幻想をますます打ち砕いたし。まあ風俗に落ちなかったのはカフェのおかげだしカフェの一番おいしい時期を体験できたのはよかったのかもしれないけど、いかんせん単価が安すぎた。当時はそれなりにお金周りはよかったけどぜんぜん引っ張れなかったし、貯金もほとんどない（ニート時期と過食嘔吐のせいもあるけど）腹立たしい。今水商売はあたしだけじゃなくてたいていの女の憧れだっつうの。なっちゃんみたいな青春が送りたかった。なっちゃんはどうしてるかな。あたしは絶対仲良くなれると思うのに、距離をとられてしまう。正直失恋より辛い。あたしはおかしいんだろうか。

そのあとりっちゃんと一緒に行く予定だったピエールマルコリーニにいって１７００円のチョコレートパフェを食べた。この世のものとは思えないほどおいしかった。吐いたせいで背中と胃が痛くて体調が万全でなかったのが悔しい。食べ終わる頃には完全に元気になっていて、もう一杯食べたいのを理性で捻じ曲げて帰ってきた。ムースが濃くて、アイスもちゃんとカカオなのにまろやかで甘くて、無糖のホイップもおいしいしバニラアイスはぶちぶちにバニラビーンズが入っていた。カカオの力か元気になってしまったのでまえから気になっていた有楽町の献血ルームに行ってみた。いつもと同じで赤血球の量が足りなくてできなかった。献血できたのは唯一一回、大宮だけだけど、大宮のはなんか基準がおかしいんじゃないだろうか。あそこだけだ検査とおるの。携帯の充電させてもらいながらこっそりサツマイモあいすを食べ、クッキーをふた袋食べ、家路についた。今日は泊まるんじゃなかったのかと母が機嫌悪くしていた。新橋と池袋での二晩を経て、結局電車代がかさんでも家に帰ったほうが快適で安く上がると気がついたのだからしかたない。でもまた物凄く一人になりたくなったらみじめな貧しい夜を過ごしてみるとひとのありがたみがわかっていいかもしれない。

八月二十一日

部活をサボって大宮のココスで存分に食べて存分に吐いてきた。親には嘘をついた。非常に気分がいい。二通目の「やっぱり休みます」メールには返信がなかったが知ったことか。・・・でもこれ以上休まないようにしよう。

午後はベッドに寝っ転がってネット。酒が飲めれば最高だけれど日の高いうちは飲ませてもらえない。グラスも使えない。つまらん。明日からそろそろ学校が始まるのが本気で憂鬱。なっちゃんからの連絡も多分来ないし。お金はほしいが、働きたくない。

八月二十六日

八月二十二日。親知らずが痛い。のに吐いてばっかりいる。アメ横で買ったマカダミアナッツのせいだ。あれ気持ち悪くなるのにとまらない。脂肪にも依存するらしいからそのせいかも。とにかく体がだるくてつらくて体育館のアリーナでこっそりうとうとしていた。渡辺の中学一年生の弟とその友達（といっても中三）が遊びに来ていて、うちのレギュラー陣は彼らに負けていた。野球部が因縁の学校に大差で勝ったらしい。それになぜかうちの顧問が浮足立っていて、やっぱり学校は部活が強くないととかいっていてうざい。頼むからそのへんなドリームに他人を巻き込むのはやめてくれ。本当に具合が悪くて、周りに人がたくさんいるのがすごくストレスだった。朝化粧もできなくてマスクをして過ごしていたが、マスクに突っ込み入れるひとがたくさんいて本当にイライラした。家に帰ってもなにもできなくてずっとベッドで寝ていた。

八月二十三日。また朝食を吐いてしまった。それでまたへんなビスケットとかは吸収させちゃうんだから嫌になる。もうすこしためになるもので体をつくらないと、相変わらず体がだるくてなにもやる気が起きない。今日から勉強合宿がはじまって身の回りがすっきりしていて快適。このまま誰も帰ってこなければいいのに。とはいえ今いる先生方が忙しく動き回っている中とくにやることがないのもそわそわした。

日曜どうやらやつの実家に行って一緒に飯を食わなければならないらしい。面倒くさい・・・

八月二十四日。大会一日目。上尾陸上競技場。暑いけどこの前ほどじゃない。生徒も顧問も何を考えているのか全然わからないし分かりたくもない。羽つきがそんなにすきならそういう工場にでも勤めればいいのに。途中何度か抜け出して近所の汚いスーパーで半額セールになっていた小物アイスを食べたりして乗り切った。まだ歯

がすごく痛い。朝食の生ハム載せパンとか最悪。かたくてやわらかいのがものすごく歯茎に障る。帰り上尾駅近くのはんこ屋で訂正印をつくろうとしたら店頭にあるものは五百円なのに千五十円取られた。珍しい名字ッて損だ。明日の準備でセキチュウにいくからまっすぐ帰らないで時間をつぶしてくれとメールが来て、明日両親が旅行だったことを思い出した。夕飯は昼間アイスを三個も食べたからご飯を抜いたけれどマカダミアナッツを食べてしまった。五千円をおかあさんからせしめた。よっしゃ。

八月二十五日。身が入らない。旅行委員の子の英語作文を添削する用事ができて助かった。こうしてみると自分は「勉強がすき」なんだなと改めて思う。スポーツなんかするくらいならたしかに勉強したほうがましだ。二時に学校を上がって大宮に行く。始めマックで六時から十一時間フリータイムを強行するつもりだったけれど休日料金らしいので興がそがれてビッグエコーに行こうと思うものの十一時スタートのくせに二千六百円するしでうだうだしていたらユースタイル（アイスつきフリードリンク完備）が十一時から朝まで千八十円というのでそっちにした。時間まで本屋、ブックオフ、閉店間際でもう帰れよ・モードのミスドで時間をつぶした。ミスドで化粧を落としていたら壁にでっかい黒い蛾がいて蛇口に近寄れなくなってしまった。顔がぬるぬるして不快だったし肌にも悪そうな気がした。だれが座ったかもわからない椅子の上で身を固くしながら、家に帰りたいなあと考えた。あの歌広の晩を思い出した。始め通路側のせまい部屋だったが途中で変えてもらった。録音どころか動画の撮影ができるサービスを見つけてかなり手間取りながらも登録してためしてみた。自分の唄ってるところが見えるのは面白い。生クリームののったプリン、玉子どうふ三連。豆乳クッキー六百キロカロリー、ミスドシナモン風味なポンデリングにあんこ挟まったやつとかろくなもの食べてない癖に結構カロリーをとっているのでおさけにしなくてよかったなとつくづく思う。そのまま朝までノンストップで歌いまくってあたまがぴよぴよしたまま朝のドンキをぶらつ

いてＪＲの改札に入って、超直を取ろうか迷ったが食欲がないのでトイレで長々身づくろいして着替えスペースでちょっとだけ気を失って、そのまま南与野に向かった。

八月二十六日。だるい。駅から体育館まで歩く途中で巨大な、鮮やかな黄緑色をした芋虫をみてしまって嫌な気分になった。本当にこのあたりは汚い街だ。ヨーロッパに比べて日本は景観を気にし無さ過ぎるといわれているのがよくわかる気がする。ここらの家に住んでいる人たちは毎朝憂鬱な気分にさいなまれなりしないのか。あんなに、窓の近くに樹の枝がしなだれかかって。虫が入ってきそう。気持ち悪い。ローソンの卵サンドがものすごくおいしそうに見えたがなんとなく買わなくて、そのかわりにマルエツでカップめんをかって人目を気にしながら啜ってしまった。こんなところ知り合いにみられたら生きていけない。

試合は十一時には全員ストレート負けで勝負が決まってしまっていた。ここから蒸暑くてやることなくて機嫌悪い顧問が傍らにいて六時間。死ぬ死と思っていたら顧問の勘違いで帰ってよかったということが三時過ぎに発覚。大宮についてからそごうの上の中華料理屋で二回リバってしまった。もう。

帰りお母さんたちとの合流の際すこしあぶなかったけど爆発しなくて済んだ。明日が憂鬱。早めに寝よう。

八月二十七日

体験入学と部活動体験。この前の学校説明会がメインのものとは違うから個別相談は４０人ほどしかいなくてカルテ整理も楽だった。英語の授業を聞きにいった。主任がいつもより早口になっているように見えた。あんな人でも（この「あんな」はいい意味）緊張するらしい。そのあとベテランの先生の面談を見学させてもらったけれど途中強烈な眠気が襲ってきて死ぬかと思った。ばれていなかっただろうか。西武文理にいただけあってやっぱり凄い人なんだと思う。いろいろ問題はあるらしいけど、まさに立て板に水というかんじだった。肝心の生徒のほうは気持ち悪い顔面をしていて、しかも多動性らしい。始終落ち着きなく腕を動かしたり視線をさまよわせたり。こういう点で自分は教員に向いていない気がする。きもちわるいにんげんはきもちわるい。ほんとに。あと一センチ近かったら蹴り倒してしまいそうだ。なんであんなきもちわるいかおで平気で生きていられるんだろう。まともな美意識とか人に迷惑をかけないようにしようという心を持って生まれていたらとっくに自殺していると思うんだけど。もうそこからして私の理解の及ばない化け物だ。

朝はじめ何をやるのかさっぱりわからなくてやりづらかったけど隣の先生とも雑談ぽいことができたし定時上がりだし穏やかな気持ちで帰ってきた。明日のために１５００円の焼き菓子も買った。作れば安くてうまいのに。馬鹿らしい。でも初めて訪ねるお宅なら焼き菓子が安全だよねやっぱり。

夕飯が待てなくて煎餅的な菓子を食べまくって、スパムとキャベツの焼いたのを食べ、にごりざけの御相伴にあずかって、納豆を食べて、そこで終わりにしときゃいいのにサラダ煎餅を追加したせいで吐いてしまった。キャベツもったいない。まともな食べ物を流してしまうとすごくもったいなく感じる。実際もったいない。昨日のみたいのは平気なのにね。

八月三十日（前書き）

八月三十日

八月二十八日。久々に大出を振って休める日。彼の実家に行って、そのあと大宮のジョイサウンドで食べ飲み放題をやった。彼の母親が自分の勤め先の卒業生だったと聞いてビビった。多分和やかに進行したと思う。ビール飲まされたけど。明日部活が終わった後三井のアウトレットパークに行くことに。

八月二十九日。朝気持ち悪さで目を覚まし、黄色ぽい酸のペーストを吐いた。血が混ざっていた。体を引きずるようにして学校に行ってみたら部活なかった。確かにそんなこと言ってた気がする。新井先生に頼まれていたコピーを慌てて刷って（後からひと学年分まるまる抜けていたのに気がつく）予定より一時間早く待ち合わせて入間のコストコとアウトレットに行った。会員には彼がなった。家族カードを譲ってくれるかと思ったけれど家族手いくこともあるだろうから黙った。サーモンは水っぽかったけれどマフィンとアップルパイの試食がおいしかった。巨大なスーパーは面白かった。駐車料金を気にして途中で一回で手入れ直してからアウトレットを見た。アプワイザーリッシェと丸井のアウトレットがかなり安くて興奮した。セットアップとアンサンブルニットを買った。向こうも巻物なんか初挑戦していた。三時ごろ遅い昼を採り、八時半ごろ家についたその足でカラオケールに行った。この前のユースタイルだ。

前回楽しかったので二匹目のドジョウでそこに行ったのだがひどかった。十一時を二十分近く待たされ、クロッソの部屋にもなかなかしてくれない。学生多くうるさい。声もなんだか出ないし何が歌いたいのか分からなくなってきた。これはもしかして、飽きたのかわたし。

八月三十日。やっほう部活ずる休みで二重埋没直してきました。朝、五時から予約の十時まではコンビニで実話ナックルズとかジャンプを立ち読みして過ごした。けちらないでカフェに入ればいいの

に。昼食もけちってついまた食べ放題にしてしまって後悔した。なんとなく気分が悪いまま東京まで行ってサンパカのソフトを食べたりデパ地下試食めぐりをしつつ、自分とかけ離れた世界をたくさん見て鬱になった。自分は社会の底辺ではいずりまわっているノミ蟲みたいなもんだと思う。ゆで卵を三個過食したくせにステーキの夕飯を平らげてカロリーが怖い。母とお笑い番組を並んでみた。なんだか落ち着かなかった。昔は自分の考えていることが全部母に分かっている気がしたけれど今はどうなんだろう。

ところでまぶたの黒い点は糸が毛穴を内側に引っ張り込んでしまったことにより皮脂その他がつまったにきびのようなものだった。前回のデブがあんまり感じ悪かったので担当を変えてもらって、そいつも埋没なんて詰まんない手術どうでもいいしみたいな態度がすけてみえたがまぶたの幅を左右合わせてあげると行ってくれてほっとした。どうやら人の顔を言うものはきき手がだんだん反対に比べて長くなるのと同じように右側のまぶただけ肉があつくなるそうだ。なのに件のあの医者はまぶたの厚みを考慮にいれずとにかく同じ幅で縫いつけたんだ。ふざけんなだから非対称だったのか。腫れは別に休むから気にしなくていいですって言ったのに最初から最後まで腫れる腫れないの話しかしないし。それより幅取ってくれっつうの。今日の奴はやっぱりカウンセリングは激短だったが今のところ添付れ通り「ひろすぎる二重」になってくれている。この前は全く変わらなかったもんね。ちょっと内出血してるけど冷やすの面倒くさい。

しかし事前カウンセリングでいろいろ聞きたいこととかこうしてほしいこととかあってもすごく言いづらい。まさかそんなことまさかしないと思うけど、これから自分に施術するこの医者を怒らせたる気を損ねたりしたらわざと手抜きをしたりあとで具合が悪くなるように何かされるんじゃないかって勘ぐってしまう。麻酔を効きづらくするとか。もっと命にかかわる事態で手術を受ける人はこれの何倍も怖いんだろ思う。こういうところから医者の勘違いとかドクハラとかが生まれるんだろう。金を払っているのはこっちなのにな

ぜか病院では客の立場が圧倒的によわいのだ。文字とおり命を握られているわけで。ちなみに今回も私はめたくそに痛くて怖かったです。一番初めの目薬はいってないのに看護婦さんひとり納得して行っちゃうし、ライトめっちゃ眩しいし、まず古い糸取るだけでもう痛くて帰りたくなったし、ほんとうに麻酔効いてたのか板入れるときはやっぱり悶絶した。

八月三十一日

中村農場で卵丼を食べようとしたら定休日だったので清里の清泉寮に行ってソフトクリームとかミルクスープとかフランクとかプリンとか食べてきた。三人で出かけるのは本当に珍しいからなるべく起きていてたくさん話をしようと思ったんだけど車に揺られていると眠くなって結構道すがらうとうとしていた。安心しちゃうのかな。清泉寮でミルク餅と大吟醸カステラをお土産にする。父は最後まで卵丼のことを憂いていた。

帰り御殿場で甲州のB級グルメ一位になったという甘辛い鶏モツ煮を食べた。赤みそと山椒が効いて甘辛い濃い味付けがおいしかった。きんかんという鶏の体の中でこれから卵になる予定の未卵も入っていた。考えてみると結構酷い食べ物だけどおいしかった。また時間ができたら今度は鹿のカレーを食べに行こうと言われた。なんだか懐かしい話もたくさんしたけど覚えていないことも多い。家族って空気みたいなものなんだと思う。もうちょっとちゃんと覚えていたい。時間が、手の指の間から砂がこぼれていくみたいにどんどんなくなっていく。かき集めようとしても脚の下には水が流れていて、同じ砂は二度と帰ってこない。

夜は狭山インターで武蔵のうどんと半熟玉子のてんぷらを食べた。肉やマイタケや葱の入ったしょうゆ味の濃いアツアツのおつゆに氷で締めたしこしこのうどんをつけて食べる。ドライブ中ってつい甘いものばかり食べるからとてもおいしかった。

七時くらいには家について、いま部屋でこれを書いている。やっぱり家につくと自分の部屋に帰ってしまうし、無理して近くにいてもなんか変な感じがする。なんなんだろうこれ。くっついてたいのに。不思議。

九月二日

特に重大な出来事が起こってるわけじゃないのにいたずらに時間だけ拘束されて、自分のスキルアップにつながるでもなし。つらい。

九月一日。とにかく眠い。前日ちゃんと十二時前には寝たのに、学年会でうつらうつらしていたような気がする。まぶたの腫れはともかく内出血が治まらなくて、生徒何人かと福井先生には自分からばらしてしまった。だってあきらかにあやしんでるんだもん。でも今から考えると「内出血しちゃって」とか「逆さまつ毛の手術で」とか言ったほうがよかった気がする。

一年生がやっぱりぜんぜんだめ。三年も。全然授業にならない。なになそんなに一年中楽しいの。なんでそんなに年中ゲラゲラゲラゲラ笑うことがあるの。本当に理解できない。結局私は学校に、というか人と接するのに向いていないんじゃないだろうか。やつらが子供とか大人とか女とか男とかじゃなくてもっと低俗で気持ちの悪いなにかべつの生き物としか思えない。実際化け物レベルの不細工も多いし。

体重は変わらないのに顔が丸くてぱんぱかぱんだ。なんでだろう。不愉快。

学年会の前に図書室の補助員が紹介されるといわれていたのに忘れてしまっていた。阿部先生も忘れていたのがまだ救い（？）だけれどあいかわらずこの人とは緊張する。丸くなる前の母を思い出す。

二十日のウエスティンまで貝食いは控えようと思ったのにそんなの守れるはずもなく、サケの切り身を買って塩を振ってがつがつ部屋で隠れ食べた。どんなものでも人にみられないところで隠れて食べるものがどんなごちそうよりおいしい。誰とも会いたくないし話したくない。

九月二日。授業が始まる。相変わらず授業は大崩壊。もうやだ。あいつらなんでそんなに馬鹿になりたいの。五分も黙っていられな

いの。楽しそうで何よりだよ。しねばいいのに。明日も時間割がぎっしりだし、来週もぎっしりだし、泣きそう。土日はがっつり試合だし。

放課後講習のときもうほとほと嫌になって帰りたい人は帰ってと言ったら七人くらいしか残らなかった。問題にされるだろうか。でも帰ってったやつらが教室にいたって、どうせあいつら「そこにいる」だけでなにひとつ聞いてやしないから同じだと思うんだけど。

部活が筋トレで早く終わって、さあ帰ろうと思ったら明日の保護者会の資料をくむとか言い出した。印刷するまではいいけど、なんで明日ホームルームで生徒に配るんじゃだめなのか理解に苦しむ。どうしてこちらがそこまでしなければいけないのか。配られたプリントを一時間くらいもなくさないでいられない人間ってもう社会じゃ必要とされないと思うのだが。しかも教員分も刷らされたが、これ昨日の学年会で配られた資料と全く一緒だ。どうして同じものをもう一度配布される必要があるのかやっぱり理解に苦しむ。結局学校を出られたのは九時ちょっと前。私は朝七時半から学校にいるんだぞ。頭おかしいんじゃないか。月二十万も行かないのに毎日十四時間拘束されてるって。空き時間なんかいらないから時給制にしてほしい。五百円でもいいから時間外の労働つけてくれたらかなりの小遣い稼ぎになるっつうの。早くやめたい。仕事しなくて済むなら子供産んだっていいくらいだ。とにかく私にはこういうの耐えられない。向いてない。はやくしにたい。んで、死ぬならこんな思いしたくない。

夜はおなかがすいていたけどウイスキーだけ飲んで寝た。体重が大幅に増えて、体の厚みが半端ないことになっていた。何この豚。

九月三日

今日も元気に授業崩壊。もう本当にみんなあいつら苦しみぬいた揚句に今までの人生全て後悔して泣きながらたった一人で息絶えたらいいのに。

とはいえ午後の保護者説明会のほうがいやだった。なにをすればいいのかさっぱりわからない。担任にしか流れが知らされていない部分もある。ただ、思ったのが、何をすればいいのか無能の指示待ち人間と化すときでも、オドオドモードをやめるだけでも印象が多少変わるんじゃないかということだ。はきはきと、「私仕事したいんです！あほだけど仕事探してます！なんかさせてください！」って感じでいたほうがいいんじゃないだろうか。次回からこのことを心掛けてみようと思う。

部活でまた顧問が切れた。「つい熱くなっちゃう」じゃねーよと思う。別に熱くてもいいけど、少なくとも私を巻き込むのはやめろ。失った青春を年下使って取り戻そうとするな。好きでやってる人は無給労働とか思わないんだろうが、私には業務時間外の拘束はことごとく拷問。興味はみじんもないし、しかもバドミントンなんか見ててもなんのスキルにもならない。勉強する時間や体力だけが奪われていく。体が疲れていると頭は働かないもん。明日も来週の土日も部活だし本当に死ねよ。あの人個人に恨みはないがほんっとうに部活やめてほしい。とにかく部活。

あと浦江がちょっと、いや大幅に気持ち悪い。あのどろっとし目がまず気もちわるいし、腹の中で何考えてるか他の人より三割増しで見えないし、体弱いアピールが半端ない精薄臭。近くにいつとぎょっとしてしまう。こっちのなにかが吸い取られそう。不気味。芋虫みつけたときみたいについ目が離せなくなることがあって悪夢。なんか妊娠でもして退学してくれないかな。

九月五日

九月四日。朝から上尾鷹の台と練習試合。一時までって前提がおかしくないか。普通の人間は十二時にご飯を食べるんですけど

そんなわけで気分は最悪。朝から病的に生クリームがほしくなってミニストップでカップデザートを買って駅で流し込んだ。クリームはおいしかったけど残りがなんだかよくわからないまずいムースとプリンで嫌になった。最近ようやく「おいしくない」という感覚が（体調関係なく、味覚的に）分かるようになった。しかし酷いゼラチン質だ。

学校につくと意外とトイレがきれいだったのであきらめていた胃の中のものを吐きたくなってしまって、もうすっかり消化していたすっぱい液体をちょっとだけ出した。喉を痛めただけだ。そのあとがやばかった。低血糖かカリウム不足か知らないがほとんど意識を保っていられなくてふらふらくらくらしていた。顧問は気づいていてスル―なのか自分が楽しくて気がつかないのか触れなかったが正直寝ていたと思う。

帰り定期を買わなければならなかったので大宮まで顧問と一緒で気まずかった。一つの話題があんまり続かないからぽつぽつお題を出してはそれが終わって・・・みたいにテンポの悪い会話を繰り返して大宮についた。まとめ買いしても値段変わらないと思っていたのに結構差があるらしくてショックを受けた。いま半年買ってもな・・・

初サブウェイ。ツナとか馬鹿にしていたらめちゃくちゃおいしかった。野菜とパンって合う。こんなに高くなければしょっちゅう買いたい。大きさとか満足度の割にはやっぱり高い。サンドイッチが４、５百円とか。

ビッグカメラでフォトショップとかコミスタの本を読んだがなにがなんだか全く分からないし興味をそそらない。パソコンで絵を描

きたい気持ちは物凄くあるのに・・・。生徒にとっての勉強もこんな感じなんだろうか。解析度とかファイルとかほんとに全く何が手掛かりなのかもわからないし、お手上げだ。機械と私は相いれない。

そのあとスイパラ行きたくなったがお金がないので抑えたのにそごうの地下で揚げ物の試食をおいしく食べたらスイッチが入って、セブンのチョコミントコーン、スーパーカップのクッキーバニラ、半額のかぼちゃ大福、餅巾着で吐いた。帰りにヤオコーで禁断のカシューナッツまで買ってしまった。食べ物代さえ浮けば私今頃大金持ちだと思う。おやじども転がして稼いだ金もまだ残ってただろうな。セックス売らなかったのが奇跡だ。

九月五日。昨日の暴飲暴食がたたって朝食が食べられなかった、というのはうそで二度寝しました。十二時前に寝たのにな。

授業をもくもくこなして、事務とか学校説明会とか学級活動よりらくだと改めて思う。決まった動きだからだ。あと他人が介入しないから。やっぱり私は技術職についたほうがよかったんだろう。理系のアタマ０だけど。

放課後特選特進の女子にクラスＴシャツを買えと詰め寄られてつい押されてしまったがどうしてもいやで担任に相談して恥をかいた。生徒しか動いてないなら生徒を言いくるめればよかったのに。誰が嬉しくて担任でもないガキの作ったＴシャツに金を払わなければいけないんだ。千円でも二千円でも、五百円だっていやだ。正直十円でもいやだしむしろくれるといってもいらない。床を磨く雑巾ならうちにもいっぱいある。文化祭とか滅びろがこっちの本音なんだから。ちょっと勘弁してくれないかなとか言わなかった自分をほめてあげたい。

そのあとまた馬鹿どもの和文英訳に付き合わされ。だから日本語をそのまま英語に直訳しようとするなっての。頭をつかってください。使えないならどっかにその頭埋めとけ。

いつものゆで卵が半額になっていたので電光石火で買って、家に帰った。今日は「何かやることありませんか」も言わなかった。

ちなみに大会は１１日丸々になった。成田には行けない。これだけでも最悪なのに、今度の大会では五校と五試合ずつ、それぞれが試合をするらしい。一校でいいじゃん！！！なにかんがえてるの、なんなの、ばかなの、しぬの？羽つき大会とか元旦にやれよ！むしろ元旦ならデパートもあいてないし全部正月料金だし部活あってもいいのに、一番いい時にばっかりぶつけやがる。好きなやつはいいだろうけどこっちは迷惑っていうかむしろ呪うぞ。どうしてそんなにハタ迷惑なの？羽つきにかかわるすべての人がお亡くなりになりますように。

あ、そうそう鷹の台の顧問は小林ね。もと野球部だそうです。

九月七日

九月六日。１Ｃの授業が完全に崩壊して口を開いたら泣きそうな気がしたので一時間ネグレクトして通した。文化祭が怖い。

なにがそんなに面白くて年がら年中ゲラゲラゲラゲラゲラゲラわらってるんだろう。なにをコソコソクスクスいつまでも内緒話しているんだろう。学生のころから全く分からない。教員になったらもっとわからない。上昇志向がまるでないし、勉強できなくて恥ずかしいって気持もないらしい。自分よりくずな人間がいるのは安心するけどそれが取引相手だのお客様だのになるとなると話は別だ。雑草みたいなものか。知らない山にでも生えてるならあー自然だなーですむけど、自分の庭に生えてると不快。

国内研修の打ち合わせもわけわからない話ばかりで海外は忙しそうだけど手伝いすべきなのか何なのかわからないし、夜中眠れなくてウオッカをリンゴジュースで割って隠れ飲みだしたけれどさっぱり酔えなかった。コップに一杯半は飲んだのに顔が赤くなるばかりで全然眠くも楽しくもならなくて、いらいらしてチキンラーメンとか生卵とか食べて吐いた。そのあと卵黄とキムチ混ぜたのを部屋のじゅうたんにぶちまけて死ぬほど後悔。いまも赤い色が落ちてない。

九月七日。平穏に過ぎた。ここに三日酷い過食衝動さえ収まれば言うことないんだが。生徒指導部の仕事に振り回されてる福居先生の仕事を手伝ったら虫の居所がいいのかなんなのかやたら感謝された。喜んどけばいいのに、馬鹿にされてるのかとかいいように使えるように「育て」てるのかとか、「ほめて育てる教育実施中」なのかとかとにかく自分の考えは卑屈だ。

しかし、これを書いている今も食べたくて食べたくて食べたくて仕方がない。土曜日ココスの屑バイキングにでも行くか。

九月九日

九月八日。三百円のマルチパックとモウのエスプレッソ。我慢爆発でアイス衝動買いした。明日は二学年がテーブルマナー研修でいないから気が楽で電光石火で帰れると思ったら学校に帰ってくるらしい。文化祭前だからか。ほんと文化祭爆発しろよ。

朝甘いものが食べたくて食べたくて仕方なかったのをミントミルクとか言うよくわからない新商品を買うだけ買ってごまかして一日過ごした。結局それは飲まなくてその代わり学校にキープしていたドライジンジャーを呑み込むように食べて、寝過したせいで食べられなかった朝食のパンもこそこそデスクで食べて、早弁までした。おかしいこの午前中の食欲。明後日絶対ココス行こう。やっぱりウエスティンまで我慢はできなかったよママン。

部活が明日ないのが死ぬほどうれしい。今日昨日と上村先生が五時半になるや否や電光石火だったからなおさらうらやましかった。給料安いんだからせめて拘束短くしてほしい。いくらあたしが無能だからって本当に酷い。苦しむために生きているみたいだ。正直世間体さえなければニートになって体でも売って暮らしたほうがよっぽどいいと思う。こうしているうちに女としての消費期限はこくこくと近づいていて、処女膜は重くなる。まともな男はどんどん売れて目が肥えてあたしになんか見向きもしなくなるし。

あー鼻整形したい。下から見たとき鼻の穴が丸いのって本当にみじめ。落ち込んで見せたってみっともなくしか見えないし。悲しそうにしたとき同情引ける顔になりたい。もちろんいい意味でだ。体の調子が悪くても誰も心配してくれない。

今日篠崎先生とトイレでちょこっと話して、あたしより五歳くらい年上なのに肌がきれいだったり、顔が驚くくらいちっちゃくて体が細いのをみていたら自分と同じカテゴリーの生き物とは思えなくてすごくみじめになった。不細工は嫌いだけどあたしより不細工が

いなくなったら死にたくなるからやっぱり多少は必要だと思った。
九月九日。人に見せるものではないと開き直ってからの自分の文章が酷い。
生理が来た。ここ何日かの異常な食欲はこれだったのか、と思う一方で別に生理関係なく私の食欲は化け物だったような気もする。今日はただでさえ四時間授業があって、しかも放課後講習と音楽室掃除とマナー研修に行った先生の自習監督があってずっと稼働しっぱなしだ。一二限の卒業研究はほとんどやることがなくて他二人の先生が受験対策に右往左往しているのをいいことにほとんどネットサーフィンして過ごした。ホテルラウンジ見たりあさって行く与野の周りにミスドがあったらいいのにと思ったけどないのを確認してうぎぎってしたり。いかにもありそうなのに・・・。久々にミスドのモーニングでエンドレスコーヒーしたい。大学時代ってよかったな。一二年は嫌なことばっかりだったけど自分の時間が増えた四年生とか就職のことさえなければパラダイスだった。一二年だってもう少し上手くやれたはず。過食症さえなければ万引きも人の目が気になるのも人とごはん食べられない症候群も方と首がこるせいで多動になるのも集中力の欠如も睡眠障害もなかった。水商売に足突っ込んだりもしなかった。あんだけ食べてはいてまだ食べたいし体には贅肉が山ほどついてる。今もアーモンドが止まらない。このままこれからどうなっていくんだろう。同僚の女の先生の疲れた肌とかたるんだからだとか見てると怖くて仕方がなくなる。私なんか若くてもぶすなのに年取ったらテロみたいな女になるんじゃないだろうか。頭の中身もからっぽだし。
なのにうちの学校のアタマ底辺で（あたしより悪いんだ。相当だ）ぶっさいくな女どもが（男も）毎日ゲラゲラゲラゲラ笑ってるの見ると殺意が沸いてくる。全員トラックに詰め込んでそのまま崖下に大分すればいいと思う。冬の海の底に沈め。
うちのクラス放課後講習大量脱走しやがった。浦江鈴木さ根元丸山あたりが本気でうざい。浦江はともかく（顔はいいほう。気持ち

悪いけど。）残りは高校生のうちから顔面凶器でなに勘違いしてるんだろう。特に根元髪もっさしすぎ。鈴木は顔面センター。丸山は眼鏡取ると誰だかわからなくなる。ごめん赤眼鏡って認識してたわ。男だと矢作が顔でかくて脚短いくせにいきがってててうざい。そういえば中村は混血らしい。だからあんなに下品なのか。混ぜるのもいいけど組み合わせを考えろって感じだ。外人に足開くのは勝手だけど変な血日本の社会にいれてくれるなよ。佐藤もいい加減にしろ。集団でいるときだけテンション高くてイライラする。大いなる愛で包もうと思ったけど無理だわ。私の博愛精神金魚すくいの網よりもろい。昨日の今日で内心大崩壊してたわ。こんなんで英語わからんとか苦手とか嫌いとか、おまえら全員国内研修しろ。文化軽視する奴が外国行くとろくなことにならない。ミキサー車に放り込んでバラバラにしておさかなさんの栄養分になればいいのに。おまえらが社会に貢献できるとしたらそういう原始的な場面でしかありえねえよ。いるだけで害だ害。飯食うし息吸うし糞たれるし。水洗トイレの水道代がもったいないから体に糞詰まらせて死ね。ちょうどうんこみたいな顔してるしちょうどいいじゃん。あーうざい。

九月九日（後書き）

ひどいな後半

九月十二日

九月十日。突然降ってわいた休みだ。何をしようかと考えて、特に何もできないのに気がついた。というか正直何をしたいのかよくわからない。とにかく休みたい働きたくないのが本音だが休むって今までどうしていたんだっけ。

迷走して挙句近所のココスで豚の餌みたいな食べ物を散々過食嘔吐してしまった。ほんといくら７００円だからって伊奈店の品ぞろえは悪すぎる。唐揚げもないしメロンパンもピザもとろろもない。あさりの炊き込みご飯もなかった。全部まずい。ホットミルクも薄いし。それでも限界まで胃を痛めつけるとあの鬼のような食欲が少しは収まった。生理が始まってしまったせいもあるのだろうが。

母には部活があったことになっているので家に帰って無理やり少しだけラーメンを食べて、母とちょっとした時間喋っていた。話が熱くなるとついつい嫌なことを掘り返してしまいそうになるので緊張もあったが楽しかった。でもそれにしても私は本当に歩く地雷原だと思う。母にとっては見たくないもの消してしまいたい物の象徴みたいに思われても確かに仕方ない。人間の根っこが屑だから。今持ってる生徒たちより屑だから。精神病に依存癖に盗癖に売春まがいなこともしたし自意識過剰でわがままですぐキレるしもう本当にどうしようもない。だらしなくて努力が大っきらいなのが決定的だ。

毛嫌いしていたルーキーズを見た。面白くてちょっとむかついた。溝端順平ってあんなに顔整ってたんだ。

夜食べすぎたけどおいしかった。レバーのにつけたのが特に。

九月十一日。宏美の迎えには結局行けなかった。正直この一日のことは思い出したくもない。とにかく暑い暑い暑い暑い暑い暑い暑い暑い暑い。くそつまんないし、結局０勝だし夏あんだけ迷惑掛けといて何考えてんのばっかじゃないの。みんな死ね。女子もやめるなら辞めろ。最後のところまで大っきらいといってる顧問に責

任持ってもらおうなんて甘すぎる。いやならちゃんと直談判してやめろ。こいつらバイトとかもバックれるタイプなんだろうな。目先のちょっと苦しいことが我慢できなくていろんなものの間をふらふらして何一つ身につかないタイプだ。しかし汚いし暑いし本当にスポーツなんかみんな嫌いだ。携わる人間一人残らず苦しみもがいて死ね。ストレスでアーモンドをばりばりやって雪見大福のマルチパックを飲むように道端で押し込んで吐いたけれどほとんど出なかった。吸収早すぎて頭が痛い。デブは嫌だ。呼吸する生ごみ。なのに食べることしか楽しみがない。

九月十二日。朝死ぬほど憂鬱だったけれど行ったらなんとかなった。まあお菓子は止まらないんだけど。時間割もさっぱりわからないし。問題はそのあと。

家についたのは八時半で、当然こんな時間にモノをたべたら脂肪まっしぐらだ。だから朝食べるといっただけなのに母発狂父発狂。自分の常識をこっちに押し付けるのはやめてほしい。おまけに仕事中のストレス間食すら禁止する気ですか。死ねっていうんですか。あたしはあなたたちと違って劣等遺伝子なんで人の間に入って普通に生活するだけでも常人のい何倍も何倍もすり減らすんです。そのつらさを分かってくれとは言わないけど理解してくれたっていいんじゃないの２２年一緒にいるのになんにも見てない。ぎりぎりのところで正気を保ってるのに。歩くのがストレス、チャイムがストレス、他人の声がストレス、パソコンはストレスの塊、ｅｔｃ．ｅｔｃ．　もう死んだほうがましかもしれない。なにが楽しくて毎日生きてるのか全く分からない。

九月十四日

本当に１Ｃが大崩壊している。教室の半分以上が教科書を机に出していない。授業中に大野先生が入ってくるような事態。登用試験の話が出ているときにこういう事態って本当どうしよう。あいつらみんな文化祭で不慮の事故が起こって普通学級に通えないくらいの不具になるとか死ぬとかしてくれないかな。勉強する気ないやつは高校こないで働け。おまえらを大学なり専門に押し込む手間と押しこまれた大学・専門の迷惑を考えろ。

時間割をなんとか組み終わったものの自信なし。何をどう見てチェックすればいいのかもわからない。選択科目が多すぎる。なんでこんなに複雑にしたがるの。そこまでするような頭の生徒じゃないだろ。文理とかいうけどどっちも同じような頭のっけてるじゃん。まだ週の半分にもいかないのにクマがすごいし疲れが半端ない。まだまるまる一週間勤務が残ってる。いやだいやだいやだ。

給湯室掃除のとき藤本先生が何か言っていたが、あまり耳に入らなくて生返事だった。どなり声と猫なで声の落差が激しすぎて正直あのひと気持ちが悪い。というか教員になって改めて思ったが、私やっぱり怒鳴る人嫌いだ。指導部会が終わる前に帰ろうと思ったのにタイミングを逃し、七時を過ぎても帰れなくて誰一人まともに取り組んでいない全校朝リスニングの問題印刷までやる羽目になった。

プログラム印刷というものを覚えてひとつレベルアップした気になった。・・・地道すぎる。

家に帰ったら宏美のみやげの甘い白ワインが開いていて、それがグラスにいっぱいとたらこディップのクラッカーと鶏肉と野菜を煮込んだものと冷凍すると言い張っていたはずのカレーのあまりが夕食に出た。全部食べてもなんとなく満腹しないのをむりやり抑え込んで風呂。つらい。なんにも食べないほうがましだ。やっぱり夕飯は食べない生活にしようか。ちょっとたべるくらいならたべないほ

うがらくなのに分かってもらえない。昼から九時間何も食べないほうが変なのに分かってもらえない。一日三食ってノイローゼみたいに思いこんでるあいつら。

コテが熱いまんまになってて注意されたし。触るなよ。部屋はいるなよ。燃えねぇよ。あーうぜえ。

もうほんとに逃げたい。

九月十七日

九月十五日。木曜日は忙しい。それにしても最近食欲が酷くてお昼になるのを待ち切れずになにかしら口に運び続けてる。汚しちゃいけないものもあるのにみっともなくてどうしよう。向かいに座る上村先生が気になって仕方ない。食べ方汚らしかったり音がしていたりするだろうか。最近今まで以上に態度がよそよそしい。国内一緒なのにやだなこのままじゃ。この人も阿部先生と同じで自分ひとりでなんでもぶんぶんすすめちゃう。こっちはおいてけぼり。そりゃあなた方一人でやったほうが早くて確実なんだろうけど、わざとこっちにわけわからなくしておいて急に話振ってきたりするのは本当に腹立つ。藤本もだ。私打ち合わせ中欠席電話の対応してたし、そうでなくても担任が学年活動でどこに集まるかとか担任しか知るわけないのに私に大声で聞いたりするのやめてほしい。ああやって人を第三者から見て間抜けに見せる方法熟知してる人って性質悪い。阿部先生のお得意の時間割組み、やっぱりデータあるんじゃないですか。なんで「時間割見れば組めるでしょ」とかいうかな。授業とかカリキュラムについて熟知してなきゃ組めないっつーの。三年の特選特進なんて授業一個ももってないし理系に至っては二年生でも接点ないんだから。経営情報はもう全く未知だし。阿部先生だって一之瀬先生からデータもらって組み換えたらしいじゃん。なんでそう言ってくれないのかな。

ほかにもいろいろあって久々に過食で千円以上使ってしまった自己嫌悪。何回もレジに並んでみっともないったらありゃしない。生徒に見られてたら詰むのにやめられない。夜中こっそり下に降りてウオッカをたらふく、フルーツジュースで薄めて飲んだ。にんにくのしょうゆ漬けをパクパク食べた。明日が永遠に来なければいいのに。

九月十六日。学校も何をしたらいいのか分からず、でも暇そうに

してるわけにもいかなくて、お尻の座りの悪い一日だった。１Ｃの授業を一つやらずに済んだのがラッキーだったくらい。また食欲がお化け。またヤオコーでアイスとカップラと半額だったもっちりチーズどら焼きとでリバ。家に帰ってキムチと赤ワインを一本空けた。また親がふたりして私に怒涛の勢いで炭水化物を食わせようとしてきてうざい。私はビタミンとタンパク質だけとりたいの。カロリーのお化けの炭水化物は意識しなくたって採れちゃうしほんとほっといてほしい。自炊したい。

九月十七日。ほんとになにしたらいいかわからないイライラな一日。しかもおやつを切らしてそれもイライラ。午前中は２Ａの女の子にいれてもらってミサンガ作りを一緒にやって、午後は３Ｅに顔を出して一緒にセロハンを切って。生徒と接する時間が多いとそもそもあんまりちゃんとしてない猫がはげれて嫌われそうで怖い。人と個人的にかかわりあいたくない。私を好きになる人なんてそれなりの人だし、そもそもそんな人を見る目のない人とはお付き合いしたくない。

昼時わたしを露骨に無視するタバコとアイプチの名古屋あかりが藤本先生に怒られていて愉快だった。でもなんで尊敬も慈愛も抱いてないらしい顧問にあんなねちねち怒られて、それでもいつまでも部活に居座ってるんだろう。マゾなのか。

生徒指導で思い出した。１Ｃの一部がバイクやってジッポオイルで看板燃やして挙句に仲間の脚もローストしかけたらしい。二人進路変更。言われてみれば発覚日の授業で俺たち学校追い出される予定だからとか言っていた。ついでにクラスの三分の一学校やめるとかも言ってた。馬鹿だね。追い出されたんじゃなくて勝手にでていったんだよ。分からないかな。あんたたちが力任せに暴れて大人たちみんなが必死で引っ張り上げようとしていた命綱を切り離しちゃったんだよ。それにあんたたちと一緒に暴れまわってるように見えたあの子もその子もみんな内心じゃそんなにあなたと同調してないし、ほんとのところ親にも先生にもお友達にも愛されててそんなに

自分が不幸とか思ってないよ。あんたたちが愚痴言ったりするの聞いてもあー自分はそれに比べて恵まれてよかった！てなところだよ。見てみなよ。一心同体のつもりだったんだろうけどレールから外れたのは結局あなたとあなただけだったね。他の人はやっちまったなって思いつつも普通にあそこに居続けるし普通に人生を続けていくよ。あなたたちのことなんて三日で忘れる。さようなら。ついでにいなくなればいいのにって生徒ほかにもいたけどまあそんなに上手くいかないか。

「あの辺」の女子が援でもやってなおらない病気うつされて妊娠すればいいのに。山に捨てられればいいのに。ブスのくせに自信満々の女って顔面すりおろしたくなる。おまえらが就職する気なんじゃ介護施設にも保育園にも絶対あずけたくないな。子供の何を知ってるって言うんだろ。おまえらに子供の世話とか絶対無理。なんで自分の面倒見れない人間に限って動物とか年寄りとか子供とかより面倒なもんの世話焼きたがるんだろーな。

明日明後日マジ憂鬱。食欲がいつまでたってもお化け。早く仕事辞めたい。

九月十八日

基本的に素人の見世物をみていて面白いと感じる奴はいない。高校の文化祭なんてのはその最たるもので、セックス相手を探しに来た猿か、自分の劣等遺伝子のなれの果てを見に来た親か、その当人たちくらいしか楽しくない。というよりむしろ自分にとっては拷問。

なにをすればいいのかさっぱりわからないし、暇そうにしてちゃいけないし、どこにもかしこにも人がいるし、なにより〇〇祭りとか〇〇大会とかいうものは私は全部嫌いなんだよ。

英検申し込みがどう数えても一人足りなくて、確認したら申し込んでいない子をなぜかチェックしてしまっていた。わけがわからない。福居先生もあきれはてたらしいし中野先生も表情にこそ出さないがなにを考えているやら。というか私はいまだにあのひとが相手の面接を思い出すと赤面しかける。

あんまり深く考えたくない。生きとし生けるものすべてがうざい。明日朝起きたら世界中が死んでればいいのに。もういや本当に。あああああ

九月二十一日

九月十九日。文化祭二日目。ほとほと愛想が尽きた。文化祭はダメなやつは結局なにをやってもだめだなぁとしんしん分からせられたイベントだった。一日ずっとうろうろ歩いてくたくた。うるさいし汚いし臭いし手持無沙汰でいらいらするし。なんで大学を出てまでこんな底辺な仕事をしていなければいけないんだろう。そんなに私悪いことしたかな。結構真面目に頑張ってきたと思うのに。あんまり疲れすぎて１Ｃの迷路には入りたくないとはっきり言ってしまった。別にいいけど、いや少しまずいか？あつくてくたくたで休憩所で涼んでたらそこの生徒にいつまでいるのとか言われてイライラしていたせいもある。ほんとあいつら屑だ人間の顔をした生ごみでまともに生きてる人間のガンだ。十把一絡げでくだらない。

いらいらは後夜祭でピークをぶっちぎった。みんな疲れてるのにまあ段取りの悪いこと。挙句待たせて待たせてその出し物が全部酷い。軽音のボーカルのへたくそ加減なんかもうチャラにしてやってもいいかなってくらいお粗末。あんなのを学校の後夜祭程度とはいえ披露して恥ずかしくないってのはもう一種の才能だと思う。恥の概念がない人間って近くにいられるとものすごく迷惑で死んでほしいけど本人は楽しそうでたまにうらやましくなる。しかしひどかった。そのあとかたづけがまただらだら長いし生徒会の仕事は手伝っていいのか悪いのか分からないしとにかく疲れた。また阿部と福居れた自分たちだけで納得してすいすい現場仕切ってて、まあそれだけならいいけど、そうやっておいて後であいつ手伝わないとか言ってたり疲れたとか言ってたらめちゃくちゃむかつく。

ミーティングが終わって帰り道はひたすら解放感に満ち満ちていた。し明後日の片付けも憂鬱だけどとりあえずは明日のウェスティンだ。家に帰ってもハイテンションで幸せだった。やっと地獄から解放されたんだから、これはもう祝うしかないというところだ。

九月二十日。母が実家に行くというので早めに家を出て、大宮のマックで軽く唄ってから恵比寿に行ってアトレとかを見て回った。天気さえ良ければ代官山のほうへ散歩に行こうと思っていたのだが台風が近づいていて雲行きが怪しかった。私が待ち合わせ時間を一時間間違えていたのに加えて泉がなぜかガーデンプレイスにくるのに迷ったせいですこしぐだっときて嫌な予感がしたがやっぱり終始イライラさせられっぱなしだった。どうせそんなに食べられないんだからシェアして食べようというのをこれくらい食べられるしと露骨に嫌そうにしておいて一時間もしないうちにおなかいっぱいになって具合の悪そうな顔をしているのでむかむかした。だからいったじゃないか。本人いわく朝や昼は食べられなくて夜おなかが減っていくらでも入るのだという。だから太るんだろ。ほかにも飲みたくない種類のドリンクを勝手に頼まれたり、並べられているナイフフォークをどこから使うのかなどマナーを気にしているようなわざとらしいそぶりをみせてきたりいらいらいらいらいらいら。ホテルのレストランにデニムのショートパンツとサンダルをはいてくるような成人女性にマナーとか口にしてほしくないっつうの。食べ終わってからもちくちく嫌な感じだった。まだ立っているだけで汗をかくようなころに構想を練っていた漫画が結局まだ１ページもかけていないらしい。絵も描けないんだからとりあえずペンを入れてみれば練習にもなるのにいったい何をやっているのか。見せるわけでもないのにアドバイスもなにもできないし、この期に及んで公務員はいやだとか言っている。おまえが嫌がらなくても向こうが取らないから安心するべきだ。この後どうするかというときもどこかに座るでもなくずっと突っ立ってたまに「○○とかもどうかなー、なんて」と聞えよがしに言ってくるが、決して自分で決めようとはしないのでひたすらスルーし続けた。結局飲みに行くことになったがそれでもぐだぐだぐだしていてなにがしたいのか分からない挙句に１５００円以内で雰囲気のいいところで酒が飲みたいとかぬかしやがる。サイゼリヤでもないと無理だけどサイゼは・・・とかいってる

し、３００円均一居酒屋に行きたそうだが、あそこは合計すると別に安くもないうえにまずいしうるさいから嫌だった。結局わんに行った。平日限定。飲み放題が７７７円に御通し４００円。一人一品以上のオーダー。結論から言うと酒はおいしかった。陶器でビールが出てきて、カクテルもおいしいし、サンザシのお酒なんてはじめて飲んだ。甘酸っぱくてすこし苦味がある。特によかったのが、わかめしか入っていないものとはいえ味噌汁の無料サービスがあったことだ。これが塩分になったし、二人ともおなかは一杯でケチなので焼き鳥を四本頼んで終わり。会計は二人で三千円だった。ここで帰ればいいのに酔った勢いでカラオケに行ってきてしまった。案の定相手は疲れてグロッキー。疲れるなら迷惑だから帰れよ。不機嫌そうにしてて可愛いタイプか鏡をみてよく考えてみたらいいと思う。けだるげにしているつもりかもしれないが、完全にふてくされたぶすだから。

ほんとに泉といると「ディスコミュニケーション」って感じがする。これって多分私もほかの人から思われてることだろう。極悪ではないだけに余計性質が悪い。

九月二十一日。台風で酷い風と雨。予定表通り八時半に二日酔いがんがんの頭で行ったら誰もいない。練習は九時からって、聞いてない。もうなにがどうなろうと九時に来るようにしようか。どうせ終わるのも終わる時間に終わらないわけだし。適当言って十時に抜け出して大宮のそごうの上の中華屋で四ラウンドくらい食べて吐いてを繰り返した。本当に私はどうしようもないなと感じた。社会の底辺になって気分。ずいぶん吐き残った自覚はあるけど今ようやく体調が戻った。ああ明日行きたくないな。外は台風で風がガンガン吹いて雨が滝みたいに降ってる。

九月二十三日

九月二十二日。文化祭片付けと前期終業式。また原票に不備があった。公欠の生徒を欠席でつけてしまっていたらしい。藤本が私の声真似をしてきてむかつく。私だってもうこのオドオドモード止めたい。自信ない時ってものの言い方とか目線とか、自分で自分が気持ち悪い。人に上手く話ができなくて実際の三割増し以上に間抜けになる。

バトミントン部の女子二人がとうとう辞め・・・すはずが強引に休部にされる。去るもの追わないって言ってたその口で今度はどんな屁理屈こねるつもりなんですか鈴木先生。生徒が何をいっても「嫌なことがあったらすぐ物事をなげだすのか」とそこに持って行きたがる。なんかい「すぐ」ではないといったら分かるのか。私も何度も相談したし直接の訴えもあったのにすっかり忘れてる。しかしいいよな生徒は。いやならやめられるんだから。

牛乳を買って甘いものを我慢したのに結局体のためを思って買ったアーモンドを過食嘔吐してしまった。こういう生活があと何年続くんだろう。とても耐えられない。つらい。苦しい。全部投げ出したい。気力がわかなくて酒を買いにさえいけない。鬱。

九月二十三日。ココスのバイキングで過食しようと思ったのに体がつらすぎて無理だった。舌が荒れて、しかもパンパンに腫れて、とても食べ物を食べる気分じゃなかった。まあ半日したら完治してるんだけど。十一時まで寝こけて、そのあとも祖母の家に無理やり連れて行かれるまでうとうとしていた。なんにもいらないからとにかくいつまでも眠っていたい。サバランはあんまりおいしくない。甘いだけ。祖母の家は昔と違って何から何まで汚くて気持ち悪い。ケーキを食べてる横で痰の絡む咳をされたり、不幸のうちに死んでいった年寄りの話を何回も何回も聞かされたり、わたしもはたから見るとこう見えるのかな。小さい頃は気がつかなかったけれど、お

ばあちゃんって他人と自分を不幸にするひとだ。せめて早くみっちゃんがなくなってしまえばおばあちゃん単体ならうちに来てくれてもいいけど、おばあちゃん＋みっちゃんじゃ我が家が背負い切れる不幸ゲージを簡単に振り切ってしまうだろう。ただでさえ私っていう疫病神がいるのに（でもうちほどモラル意識厳しい家じゃなければわたしこんなに責め立てられないと思う。そもそも人殺しだって五年六年で娑婆に出てきてなんのわだかまりもなく社会復帰してるのになんで私はこんなに長いことといつまでもいつまでも忘れさせてもらえなくて苦しまなくちゃいけないんだろう。酷い不公平だと思う。要するに世の中は反省しなくて顔の皮の厚い奴の一人勝ちなんだ。さらに声がおっきいとなおよし。あたしに子供が産まれたら他人のことなんかなんとも思わなくてあたしとその子自身だけ大事にする子に育てる。それこそが幸福への道だと思う。）

九月二十六日

九月二十四日。土曜日。学校に三時間だけ行って夜は件の彼とお酒。昼間は教育補助員だか何だか元はなさきとくはるの先生さまがくそつまんない話を九十分もしてくれたおかげで腕の内側が内出血だらけ。帰り際教頭に今日の講話はどうだったときかれたけれどまさかふねこいでたの見られたのか。本採用の試験近いのに。もうやだ。

おやつ食べすぎがたたってお昼ろくに食べられず、チョコアイスを買ってフードコートで食べて、一時間だけ授業の予習をして、第四文型危ない自分に愕然として（どうしてもｂｕｙ系とｇｉｖｅ系の違いが覚えられない）、そのあとはブラブラショップを見て回った。藤井リナが宣伝やってるゴスロリスレスレのなんとかってブランドに無性に心ひかれる。そろそろ痛いってあれは！ダチュラも気になる。セール価格になったら一式買いたいな。若いうちに着られる服を着ておきたい！

夜はこの前激安飲みを体験してしまったせいで三千円がやたら高くもったいなく感じた。おごるからカラオケ行こうと言われたけれどすっかり気分が冷めて、それに吐き気がしたので早々にお別れした。家に帰ると不審なにおい。ああいやだ。

九月二十五日。遊びに行くと嘘をついて大宮ココスでひたすらリバ。６ラウンドくらいしてそうめんもクロワッサンもカレーも炊き込みも唐揚げもハッシュポテト（↑しらふじゃ食べられないけど最高吐きやすい）も気が済むまで食べてミルク系ドリンク並々で吐きまくった。なんて思われようと知ったことか。そのあとドコモの趣味の悪い銀色の携帯を衝動買いして、家に帰ってから近所のＡＵショップに行って醜態をさらした。さあ反省しようか。

夜また白飯攻撃が酷くてキレたら収拾つかなくなってひどいことになった。そのあとビールの５００と部屋に隠してたズブロッカを

御猪口でくいくい飲んで、死んだ。思い出したくないけど、とにかくもう耐えられない。荷物検査も夜間一階降りるの禁止も勝手に部屋空けるのも普通だ普通だっていうけど、それは「普通」じゃなくて「二人の好み」だっつーの。頭がパンクしそう。

九月二十六日。ＡＥＤ講習をすっかり忘れてスカートはいて行ってしまった。九時五時なのに上村がいつまでも帰らないから立場的に自分も帰れなくてイライラした。自分で仕事抱え込んどいて大変そうな顔するとかマジ迷惑。挙句変な病気発生させたらしい。脳にでも回ればいいのに。面白くない。全部がむかつく。はやく休みたい楽になりたいつらい思いをするのはもううんざり。こんなことここでしか言えない。

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n6157u/

樋口葉子の日常

2011年9月26日21時41分発行